

# 平成26年度における業務の実績に関する報告書

(事業年度評価)

平成27年6月30日

地方独立行政法人山口県産業技術センター

## 目 次

### I 法人の概要

- (1) 名称
- (2) 所在地
- (3) 法人成立の年月日
- (4) 設立団体
- (5) 中期目標の期間
- (6) 目的及び業務
- (7) 資本金の額
- (8) 代表者の役職氏名
- (9) 役員及び職員の数
- (10) 組織図

### II 平成 26 年度における業務の実績に関する自己評価結果

- (1) 総合的な評定
- (2) 評価概要
- (3) 対処すべき課題
- (4) 従前の評価結果の活用状況
- (5) 平成 26 年度評価における項目別評価結果総括表

### III 中期計画の各項目ごとの実施状況

- 第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
  - 1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進
    - (1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備
    - (2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進
  - 2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進
    - (1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組
    - (2) 研究開発成果の普及とその活用
    - (3) 各種技術研究会活動の積極的展開
    - (4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援
    - (5) 数値目標
  - 3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化
    - (1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実
    - (2) 技術相談の充実
    - (3) 新たな技術課題の掘り起こし
    - (4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実
    - (5) 数値目標

### 第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- 1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し
- 2 職員の職能開発の計画的実施
- 3 法人サービス業務の「見える化」の推進
- 4 コンプライアンスの確保
- 5 情報管理の徹底
- 6 危機管理対策の推進

### 第 3 財務内容の改善に関する事項

- 1 自己収入の確保
- 2 経費の抑制

### 第 4 その他業務運営に関する重要事項

- 1 施設設備の適切な管理
- 2 環境負荷の低減

### 第 5 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画

- 1 予算
- 2 収支計画
- 3 資金計画

### 第 6 短期借入金 の 限度額

### 第 7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

### 第 8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

### 第 9 剰余金の使途

### 第 10 法第 40 条第 4 項の承認を受けた金額の使途

### IV その他法人の現況に関する事項

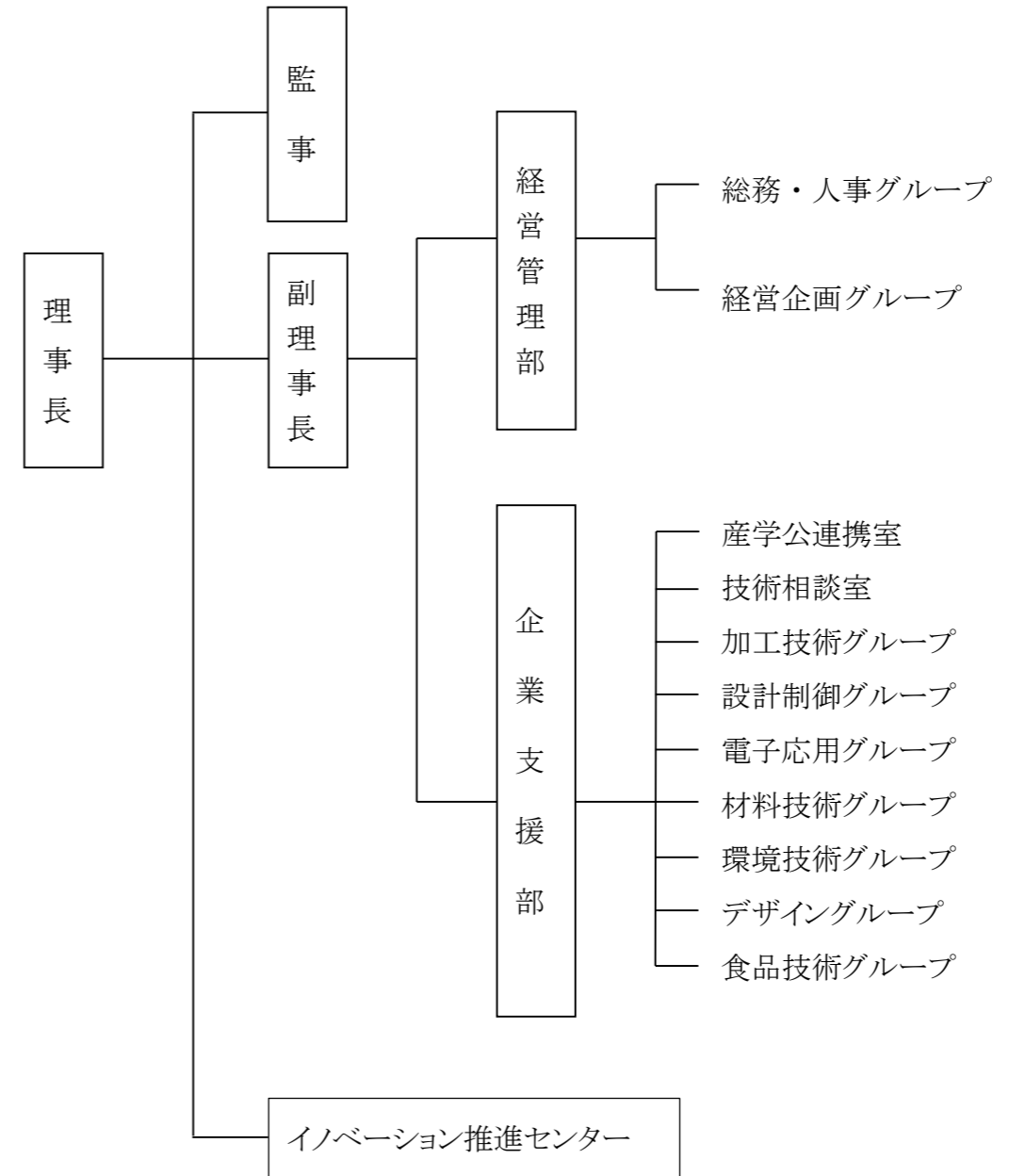
- 1 地域別企業支援状況
- 2 産業分類別企業支援状況
- 3 施設利用
- 4 財務関係
  - (1) 資産、負債
  - (2) 損益計算書
  - (3) キャッシュ・フロー計算書
  - (4) 行政サービス実施コスト計算書
- 5 組織関係
  - (1) 役職員数
  - (2) 役員の状況
- 6 主要な設備等の状況
- 7 その他の評価結果等の活用状況
- 8 その他法人の現況に関する重要事項

**I 法人の概要（平成26年5月1日現在）**

- (1) 名称  
地方独立行政法人山口県産業技術センター
- (2) 所在地  
山口県宇部市あすとぴあ四丁目1番1号
- (3) 法人成立の年月日  
平成21年4月1日
- (4) 設立団体  
山口県
- (5) 中期目標の期間  
平成26年4月1日から平成31年3月31日まで
- (6) 目的及び業務  
 ア 目的  
 産業技術に関する試験研究、その成果の普及、産業技術に関する支援等を総合的に行うことにより、産業の振興を図り、もって山口県における経済の発展及び県民生活の向上に資する。  
 イ 業務  
 (イ) 産業技術に関する試験研究を行うこと。  
 (ロ) 産業技術に関する試験研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。  
 (ハ) 産業技術に関する照会及び相談に応じ、並びに助言その他の支援を行うこと。  
 (ニ) 試験研究設備その他の設備及び施設を一般の利用に供すること。  
 (ホ) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
- (7) 資本金の額  
6,375,046千円
- (8) 代表者の役職氏名  
理事長 山田隆裕
- (9) 役員及び職員の数  
 ア 役員  
 理事長 1名  
 副理事長 1名  
 監事 1名  
 役員計 3名  
 イ 職員  
 職員(常勤) 47名

職員(非常勤) 26名  
職員計 73名

(10)組織図



## II 平成26年度における業務の実績に関する自己評価結果

### (1) 総合的な評価

評価 中期計画の進捗は順調 (A)

#### 【理由】

大項目別評価の評点平均値に各大項目のウエイトを乗じて得た数値の合計値は3.9(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.6)であり、「A評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

### (2) 評価概要

#### ア 全体的な状況

4つの大項目(「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」及び「その他業務運営に関する重要事項」)に係る中期計画の進捗は、いずれも順調である。

#### イ 大項目ごとの状況

#### 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

評価 中期計画の進捗は順調 (a)

#### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウエイトを乗じて得た数値の合計値は4.2(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は4.2)であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

#### 当該大項目内の状況

「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」を構成する3つの中項目のうち「戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進」に係る中期計画の進捗は、優れて順調であり、イノベーション推進センター設置による提案公募型事業の採択や、競争的資金の獲得支援において、体制整備の機能を十二分に発揮した。

「中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進」では、「やまぐち3Dものづくり研究会」の新たな設置や、やまぐちブランド技術研究会活動の積極的展開と技術革新計画の承認支援で大きな成果を上げ、優れて順調に進捗している。「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化に係る中期計画の進捗は、金融機関との連携による事業実施や、6次産業化・農商工連携による研究開発で事業化を達成するなど、順調に進捗している。

#### 長所及び問題点等

#### 第1-1 地域イノベーションの推進 S

(1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備については、イノベーション推進センターを開設し、推進体制として、2名のプロジェクトプロデューサーを中心とする、「環境・エネルギー推進チーム」と「医療関連推進チーム」を設置した。また、平成26年度文部科学省補助事業「地域イノベーション戦略支援プログラム」(研究機能・産業集積高度化地域)「やまぐちものづくり」環境・医療イノベーション創出地域の総合調整機関として、地域イノベーションの創出を行う5年間の体制を整備した。 4

(2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進については、イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として、関係機関と連携しつつ国等の提案公募型事業(競争的資金)の積極的な活用を行った。イノベーション推進センターにおける企業の競争的資金獲得支援においては、29件の獲得実績を上げるなど、極めて多くの採択実績を上げた。 5

#### 第1-2 ものづくり力の高度化・ブランド化の推進 S

(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組については、「技術戦略―第2期―[ロードマップ]」を策定・刊行し、企業に配布した。実用化研究では、7テーマ中3テーマで企業による事業化を達成し、研究開発は順調に進捗した。 4

(2) 研究開発成果の普及とその活用については、研究会や研究(技術)発表会の開催、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信するとともに、研究開発成果を事業化する上で必要となる製品化研究を、技術移転する企業から資金を得て実施した。

企業に対するフォローアップでは、イノベーション推進センターによる述べ239回の企業訪問を行い、精力的な支援を展開した。

共同研究・受託研究では、6件の事業化・商品化実績が上がった。

知的財産管理では、研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、他県の状況を調査し、適切な仕組みの検討を行った。 4

(3) 各種技術研究会活動の積極的展開については、中国、四国、九州(沖縄県を除く)の公設試験研究機関で初めて金属3Dプリンターを導入し、3Dプリンターなどを活用した3Dものづくりに関連する技術について、「やまぐち3Dものづくり研究会」を新たに立ち上げた。 4

(4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援については、やまぐちブランド技術研究会を中心として、企業の技術革新計画の承認支援を行い、年度計画を十二分に達成した。また、

国等の提案公募型事業に、極めて多くの採択支援実績を上げた。 **5**

(5) 数値目標については、特許等の出願及び新規使用許諾件数が目標に1件到達しなかったが、技術革新計画の取得や、国等の提案公募型事業の獲得、研究開発・技術支援の事業化が、年度目標を大きく超えた。

- ・特許等の出願及び新規使用許諾件数 10件(目標11件) **3**
- ・山口県技術革新計画の承認支援件数 6件(目標4件) **5**
- ・国等の提案公募型事業の獲得件数 8件(目標6件) **5**
- ・研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数 10件(目標8件) **5**

### 第1-3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化 **a**

(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実については、産学公金連携セミナーの共同開催や、金融機関との共同企業訪問、ものづくり補助金の相談会への職員派遣等積極的な協力関係を構築した。山口大学との共同研究では、LEDを用いた薬用植物への病害防除技術の研究開発で、県内企業より事業化を達成した。 **3**

(2) 技術相談の充実については、開放機器の操作補助員を新たに2名増員し、増大する企業ニーズに対応した。また、サテライト窓口による技術相談対応で、周南地域より、温泉水を利用した雑貨石けんの製造技術支援で商品化を達成した。 **3**

(3) 農商工連携の取組支援については、農林総合技術センターとの共同研究で事業化を達成した。また、農水省の提案公募型研究開発事業に2テーマが採用された。機器整備では、農商工連携・6次産業化の推進に資する、味認識装置、におい識別装置等を配備した。 **4**

(4) 技術支援サービスの充実については、企業ニーズの調査結果を踏まえ、翌年度の機器導入に着実に反映させた。また、新事業創造支援センターの入居要件を改正し、企業の要望に迅速に対応した。 **3**

(5) 数値目標については、企業訪問と開放機器・依頼試験の利用件数が、目標を大幅に超え、年度計画を十二分に達成した。

- ・技術相談件数 3,815件(目標3,300件) **4**
- ・訪問企業数 348社(目標230社) **5**
- ・開放機器・依頼試験の利用件数 3,699件(目標3,040件) **5**

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

評定 中期計画の進捗は概ね順調 **(b)**

### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.2(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.2)であり、「b評価」の判断の目安である「2.7以上3.4以下」の範囲内となっている。

### 当該大項目内の状況

「業務運営の改善及び効率化に関する事項」を構成する6つの中項目は、それぞれ順調に実施されている。特に「職員の職能開発の計画的実施」については、外部講師を招いた知財研修を新たに実施した。

### 長所及び問題点等

#### 第2-1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し **b**

運営体制や経営資源配分の継続的見直しについては、情報発信の担当者を新たに増員し、体制を強化した。また、情報ステーションのレイアウトをリニューアルし、一部を飲食可とするなど、利用者のニーズを反映した。 **3**

#### 第2-2 職員の職能開発の計画的実施 **a**

職員の職能開発の計画的実施については、MOT研修では、企業の協力を得、外部講師の指導の下、実際の企業を事例とした実務的な研修を実施した。また、知的財産に係る実務的な研修を、外部講師を招聘し実施した。 **4**

#### 第2-3 法人サービス業務の「見える化」の推進 **b**

法人サービス業務の「見える化」の推進については、第2期「技術戦略」の策定や、刊行物の発行、成果発表などを計画的に実施した。また、ホームページをリニューアルし、技術グループの概要を加える等、内容の充実に努めた。やまぐち6次産業化・農商工連携ネットワーク促進交流会に新たにパネル出展し、法人のPRを積極的に行った。 **3**

#### 第2-4 コンプライアンスの確保 **b**

コンプライアンスの確保については、外部講師による全職員を対象とした研修を実施した。 **3**

#### 第2-5 情報管理の徹底 **b**

情報管理の徹底については、新規採用職員を対象に職員教育を実施し、セキュリティ機能付きUSBメモリを導入する等、必要な対策を講じた。 **3**

#### 第2-6 危機管理対策の推進 **b**

危機管理対策の推進については、BCPの策定に向けて他県などの情報を収集し、骨子

を作成した。 **3**

### 第3 財務内容の改善に関する事項

【評価】 中期計画の進捗は順調 **(a)**

#### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.6（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5）であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

#### 当該大項目内の状況

「財務内容の改善に関する事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は順調に進捗している。

#### 長所及び問題点等

#### 第3-1 自己収入の確保 **a**

開放機器・依頼試験、施設使用料については、消費税額の変更に伴い、迅速に手数料等の見直しを行った。また、新たに導入した機器についても、導入年度内に開放機器化を図った。

機器整備に係る補助事業の獲得については、JKA補助金の他、新たに対内投資等地域活性化立地推進事業費補助金で、金属3Dプリンターを導入し、3Dものづくり技術の支援体制強化を行った。広域連携による機器整備として、経済産業省平成25年度補正地域オープンイノベーション促進事業により、味認識装置、におい識別装置の無償貸し付けを受け、センターに配備された。 **4**

#### 第3-2 経費の抑制 **b**

次年度の予算編成において、従来の前年度事業費を基準にした予算配分に積上による予算配分を取り入れるとともに、より厳密な予算配分に努めた。また、執行管理を目的として、予算の執行状況の集計を実施した。 **3**

### 第4 その他業務運営に関する重要事項

【評価】 中期計画の進捗は概ね順調 **(b)**

#### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.3（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.3）であり、「b評価」の判断の目安である「2.7以上3.4以下」の範囲内となっている。

#### 当該大項目内の状況

「その他業務運営に関する重要事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は概ね順調に進捗している。

#### 長所及び問題点等

#### 第4-1 施設設備管理 **a**

施設の管理については、計画的な予算配分により安全性や業務の信頼性の確保に努めるとともに、設備・機器の修繕についても利用状況を勘案し、優先的な予算執行を認めるなど、施設、設備、機器が良好な状態に保たれるよう配意した。機器については、既存機器の老朽度の把握を行うとともに、今後の研究開発での必要性の精査と企業へのアンケート調査の結果を踏まえ、整備計画の修正を行った。 **3**

(数値目標)

・中期計画期間中の来庁者数 11,875人（目標値11,000人） **4**

#### 第4-2 環境負荷の低減 **b**

環境負荷の低減については、環境負荷の低減に資する研究開発を9テーマ実施し、6件の研究開発・技術支援の成果を上げた。エネルギー監視システムを継続的に運用すると共に、運用状況を評価し、エネルギー消費や廃棄物排出の削減、グリーン購入等に努めた。 **3**

### (3) 対処すべき課題

平成27年度は、第2期中期目標・中期計画の2年目であり、「中核的技術支援拠点」として、その機能の更なる強化と、平成26年度に策定した第2期「技術戦略」の一層の「見える化」を図りながら、「地域イノベーションの推進」、「ものづくり技術の高度化・ブランド化」に寄与する取組みを、着実に、且つ効果的、効率的に実践することを目指す。

#### 【地域イノベーションの推進】

(戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備)

「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」の地域イノベーションの推進に向けて、平成26年度に構築した「イノベーション推進センター」を中心とした体制を充実させ、「やまぐちイノベーション推進協議会」や県等と一体となって、効果的・効率的に運営する。さらに、文部科学省補助事業である地域イノベーション戦略支援プログラムを引き続き推進する。

(産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進)

イノベーション推進センターや産学公連携室を中心としたコーディネート活動の一層の充実により、戦略産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘と、研究開発から事業化までのシナリオ(研究開発・事業化計画)作成の取組みの強化を図る。

また、研究開発プロジェクトの継続的な実施、研究成果の県内中堅・中小企業への技術移転や事業化に向け、国等の提案公募型事業(競争的資金)の積極的な活用をはじめとする必要な支援を、戦略産業分野を重点的に、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。

#### 【県内企業のものづくり力の高度化・ブランド化】

(事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組)

策定した第2期「技術戦略」を、県内企業へ向け積極的に見える化を推進すると共に、技術戦略に基づく事業化を視野に入れた実用化研究を重点的に実施する。

また、技術グループ横断的な「ものづくりチーム」を編成し、3Dプリンターなどを活用した3Dものづくり手法の確立と、その手法を活かした新製品の企画・開発を行う。

(研究開発成果の普及とその活用)

研究会や研究(技術)発表会の開催、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により、研究開発成果を県内企業に積極的に発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組みを推進するとともに、企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行う。

また、研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。

(各種技術研究会活動の積極的展開)

「やまぐちブランド技術研究会」では、技術分科会活動を通じて講演会や共通課題の勉強会、活動成果の展示会出展などを行うとともに、会員企業それぞれの新たな技術獲得に向けた個別支援を行う。また、会員の「やまぐちブランド技術革新計画」の承認支援を目指した研究会活動と会員単独又は会員共同の技術開発を支援する場としての取組を強化することにより、産学公の連携により、高度技術産業において、県内企業のものづくり基盤技術の高度化、ブランド化の促進を目指す。

「新エネルギー研究会」では、県産エネルギーや省エネ機器などの県産資源を利活用するエネルギーシステムやスマートファクトリー等の実現のため、研究会活動や実証試験を継続して行うとともに、分科会で参画企業が新たなビジネスチャンスを発掘できるよう、オープンイノベーションによる研究会活動とこれまで取り組んだ研究成果を事業化に繋げるため、国等の提案公募型事業(競争的資金)の積極的な活用を目指す。

平成26年度に設立した「やまぐち3Dものづくり研究会」では、今年度に編成する「ものづくりチーム」を中心に、3Dプリンターなどを活用した3Dものづくりに関連する技術を習得するとともに、その技術を活かして本県の資源や魅力を活かした新製品の企画や試作を行う。

(研究開発計画策定や資金獲得の支援)

やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画(シナリオ)策定を支援する。また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業(競争的資金)の獲得を支援する。

#### 【「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化】

(効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実)

国・県の緊急的な施策にも積極的に協力し、企業のものづくりや拠点機能を強化する。また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を行う。

(技術相談の充実)

技術相談の一元化(技術相談室)や遠隔地対策(サテライト窓口、電子メール相談)、巡回企業訪問、巡回相談窓口等をレベルアップさせるとともに、グループウェアによる情報共有(企業・課題・対応)、技術相談室を中心とした相談対応の連携強化により、県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力を強化する。

(新たな技術課題の掘り起こし)

1次産業(農業・漁業)や3次産業(サービス業)の技術課題を掘り起こし、農林総合技術センターや水産研究センター等の県内公設試や医療・福祉・介護機関等からの課題抽出を行い、ものづくり企業や関係機関と連携して課題解決に向けた取組を行う。

(先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実)

県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に加え、広域連携に資する機器整備の充実に努めることで、以下の技術支援サービスの充実に努める。また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。

#### 【業務運営の改善及び効率化】

(運営体制や経営資源配分の継続的見直し)

運営体制や経営資源の配分について、経営委員会、企業支援委員会における理事長による迅速な意思決定を行う。また、全体会議の開催による全職員の情報共有、若年者と役員との座談会の開催、職員提案制度を実施する。さらに、経営管理部の機能を強化し、他県の状況を調査検討の上、業務の質的な改善、進捗管理と適時適切な見直しを行う。

(職員の職能開発の計画的実施)

研修計画を策定し、計画に基づき体系的・計画的に実施する。また、外部評価を利用した人材育成や職員の技術開発能力の向上のため、職員が外部から評価を受ける機会を活用する。

(法人サービス業務の「見える化」の推進)

策定した第2期「技術戦略」の冊子を活用して、県民に分かり易い情報発信を心がけるとともに、パンフレットや成果事例集の発刊、成果発表会の開催、県内・県外イベント等でのPR活動、施設見学の誘致等を行う。

また、エントランスホールに、本県産業の現状と歴史が学べるコーナーの創設に向け、掲載する内容を精査し、必要な情報の収集を行う。

(コンプライアンスの確保)

労働安全衛生法等の法規制や職員倫理に関する職員教育を適宜外部講師を活用する等して、魅力ある研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

(情報管理の徹底)

個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のため、新規採用職員を対象とした職員教育や所内会議等での職員への周知徹底を行う。また、コンピュータによる情報漏洩に備え、情報セキュリティポリシーの周知徹底を図る。

(危機管理対策の推進)

策定した「業務継続計画」(BCP)のさらなる充実に努めるとともに、運用を開始し、職員への周知徹底を図る。

#### 【財務内容の改善】

(自己収入の確保)

機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、使用料の適正な料金設定、機器・施設の利用促進や知的財産権の実施許諾の獲得に向けたPR活動、施設等の有効利用による収入の確保(例:自動販売機等)等による収入の確保に努める。

(経費の抑制)

経費の効率的使用の観点から、必要な予算措置を事業毎に編成し、決められた執行管理方法に基づき運用する。また、一般的な管理運営にかかる経費について見直しを行い、抑制を図る。

#### 【その他業務運営に関する重要事項】

(施設設備の適切な管理に関する事項)

施設設備について、利用者の要望を反映させる仕組みの検討を行うと共に、保守点検、修繕等を計画的に行い、施設設備の定期的な保守点検、修繕、更新(計画の作成、実施予算の確保等)、管理システムの運用(開放機器・依頼試験・会議室等予約システム)を行う。

合わせて、今後必要となる施設の大規模修繕・改修について整理し、対応を検討する。

また、施設等の利活用状況を把握し、ひとつづくり財団、やまぐち産業振興財団、商工会議所、経営者協会、工業系学校・大学等関係団体への働きかけにより、各種セミナー、研修会、研究会、説明会、打合せ等での利活用を促進する。

(環境負荷の低減に関する事項)

省エネルギーや廃棄物の適正な処理等、環境負荷の低減に向けた環境マネジメントを継続して実施するとともに、その運用状況を評価しその結果に基づき必要な措置を講ずる。

#### (4) 従前の評価結果の活用状況

第1期中期目標期間における業務の実績に関する評価において、中期目標未達成の項目は無かったものの、第2期中期目標の達成に向け、引き続き業務改善等に取り組んでいる。

平成26年度においては、特許等の出願及び新規使用許諾件数が目標にわずかに達しなかったが、イノベーション推進センターを中心とした積極的な取組により、中期計画は順調に進捗している。



(5) 平成26年度評価における項目別評価結果総括表

(大項目) (中項目) (小項目) (細項目)	中期計画 における 対象細項 目数	年度計画 における 対象細項 目数	細項目別評価の評点内訳 (個数)					細項目別 評価の評 点の平均 値	小項目 別評価 の評点	各小項目のウエイト		中項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目のウエイト		大項目別 評価 (加重平 均値)	各大項目 のウエイ ト	全体評価 (加重平 均値)
			5 点	4 点	3 点	2 点	1 点			計	配分		考え方	配分			
全体評価	34	34	7	10	17	0	0	34	3.7								
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	23	23	7	7	9	0	0	23	3.9								
1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進	2	2	1	1	0	0	0	2	4.5			ウエイト平均 s(4.5)	0.4				
(1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備 各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制の構築と運営	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.5	いずれも重要な取 り組みでありウエ イトは等分に配分					
(2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進 企業間や産学公が連携した研究開発プロジェクトの発掘等	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0	5	0.5		単純平均 s(4.5)				
2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進	9	9	4	3	2	0	0	9	4.2			ウエイト平均 s(4.3)	0.3				
(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組 第2期技術戦略の明示と計画的な研究開発の実施	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.3	「実用化研究への 重点的取組」に重 点的に配分					
(2) 研究開発成果の普及とその活用 ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援 イ 知的財産の適切な管理	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5	4	0.2		単純平均 s(4.4)				
(3) 各種技術研究会活動の積極的展開 各種技術研究会活動の積極的な展開及び研究開発の促進	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2						
(4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援 研究開発計画策定や資金獲得の支援	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0	5	0.2						
(5) 数値目標 ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 イ やまぐちブランド技術革新計画の承認支援件数 ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 エ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数	4	4	3	0	1	0	0	4	4.5	5	0.1	ウエイト平均 a(4.2)					
3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化	12	12	2	3	7	0	0	12	3.6				0.3				
(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実 国等の産業振興施策への積極的な協力及び他の支援機関との連携	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2	ウエイト平均 a(3.6)					
(2) 技術相談の充実 相談窓口機能の充実及び職員の対応力の強化	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2		単純平均 a(3.6)				
(3) 新たな技術課題の掘り起こし 1次産業や3次産業の技術課題を掘り起こす取組の強化	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2	いずれも重要な取 り組みでありウエ イトは等分に配分					
(4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実 機器操作補助員の拡充による技術支援機能の強化 ア 開放機器 イ 依頼試験 ウ 受託研究・共同研究 エ 技術者研修 オ 新事業創造支援センターの効果的活用	6	6	0	1	5	0	0	6	3.2	3	0.2						
(5) 数値目標 ア 技術相談件数 イ 訪問企業数 ウ 開放機器・依頼試験の利用件数	3	3	2	1	0	0	0	3	4.7	5	0.2	ウエイト平均 A(3.9)					
	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0			単純平均 A(3.6)					
	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0								
	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0								

第2 業務運営の改善及び効率化	6	6	0	1	5	0	0	6	3.2										
1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
運営体制や経営資源の配分についての調査検討及び適時見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
2 職員の職能開発の計画的実施	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
研修計画に基づく体系的・計画的な研修の実施	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
3 法人サービス業務の「見える化」の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第2期技術戦略の策定及び周知並びに情報発信内容及び方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
4 コンプライアンスの確保	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
法令遵守等に資する仕組みの適切な運用及び職員教育の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
5 情報管理の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
漏洩防止のために必要な措置の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
6 危機管理対策の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
「業務継続計画」(BCP)の策定	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第3 財務内容の改善	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5										
1 自己収入の確保	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
国等の外部資金の獲得及び運営費交付金以外の収入の確保努力	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
2 経費の抑制	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
予算の配分や執行管理方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第4 その他業務運営に関する重要事項	3	3	0	1	2	0	0	3	3.3										
1 施設設備の適切な管理	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5										
保守点検・修繕等の計画的な実施及び有効活用策等の検討	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
数値目標 来庁者数	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
2 環境負荷の低減	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
環境マネジメントの継続実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										

※小項目がない中項目については、細項目別評価の評点の平均値により評価を行う。

Ⅲ 中期計画の各項目ごとの実施状況

大項目	第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進

中 期 目 標	<p>&lt;戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進に関する目標&gt;</p> <p>全国トップレベルの医療関連産業の集積や、瀬戸内沿岸部の素材・部材の供給基地などの本県産業の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる医療関連産業や環境・エネルギー産業などの戦略産業の育成・集積に資する持続的な地域イノベーション創出環境の整備に資するため、戦略産業分野において、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの研究開発を支援する体制を整備し、産学公や企業間連携による研究開発・事業化を促進する。</p>
------------------	---

第 1 - 1 ( 1 ) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等			
<p>推進体制</p> <p>県の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」などの戦略産業における次世代産業クラスターの形成に向け、県内でのイノベーションを促進するため、「やまぐちイノベーション推進協議会」等との連携を図りながら、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制をセンター内に構築し、効果的・効率的に運営する。</p>	<p>推進体制</p> <p>第 1 期に設置したクラスターセンター、イノベーション推進チームを発展的に改組し、イノベーション推進センターを設置して、「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」のイノベーションを推進できる体制を構築する。</p> <p>また、「やまぐちイノベーション推進協議会」や県等と一体となった運営を行い、センター研究員の効果的な配置や産学公連携室との効率的な連携、文部科学省の提案公募事業である地域イノベーション戦略支援プログラムの獲得による体制の充実を図る。</p>	4	<p>平成26年4月、第 1 期に設置したクラスターセンター、イノベーション推進チームを発展的に改組し、イノベーション推進センターを開設し、推進体制として、2名のプロジェクトプロデューサーを中心とする、「環境・エネルギー推進チーム」と「医療関連推進チーム」を設置した。</p> <p>平成26年度文部科学省補助事業「地域イノベーション戦略支援プログラム」(研究機能・産業集積高度化地域)「やまぐちものづくり」環境・医療イノベーション創出地域の総合調整機関として、地域イノベーションの創出を行う体制を整備した。</p> <p>■地域イノベーション戦略支援プログラム</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 40%;">地域イノベーション戦略推進地域 (4 省共管) 及び地域イノベーション 戦略支援プログラム</td> <td style="width: 20%;">補助期間 5 年間</td> <td style="width: 40%;">総合調整機関：産業技術センター</td> </tr> </table>	地域イノベーション戦略推進地域 (4 省共管) 及び地域イノベーション 戦略支援プログラム	補助期間 5 年間	総合調整機関：産業技術センター	<p>年度計画を十分達成</p> <p>体制を整備し、その機能を十分に発揮</p>
地域イノベーション戦略推進地域 (4 省共管) 及び地域イノベーション 戦略支援プログラム	補助期間 5 年間	総合調整機関：産業技術センター					

第 1 - 1 ( 2 ) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																														
<p>関連機関との連携</p> <p>戦略産業分野における企業間や産学公の連携による研究開発プロジェクトの発掘に取り組むとともに、当該プロジェクトが円滑に実施され、県内中堅・中小企業への波及等につながるよう、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を関係機関と連携しつつ適切に行う。</p>	<p>関連機関との連携</p> <p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心としたコーディネート活動により、戦略産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘と、研究開発から事業化までのシナリオ（研究開発・事業化計画）作成に取り組む。</p> <p>また、研究開発プロジェクトの継続的な実施、研究成果の県内中堅・中小企業への技術移転や事業化に向け、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。</p>	5	<p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として、関係機関と連携しつつ国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用を行った。また、テーマ選定検討会を開催し、サポイン等の提案公募案件のブラッシュアップを行った。その結果、多くの提案公募案件で採択の実績が上がった。</p> <p>■ものづくり補助金の計画書作成支援状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支援件数</th> <th>採択件数</th> <th>採択率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>53 件</td> <td>25 件</td> <td>47%</td> </tr> </tbody> </table> <p>■平成 26 年度戦略的基盤技術高度化支援事業申請状況（継続分含む）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>申請テーマ数</th> <th>採択数</th> <th>採択率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6（うち新規 3）</td> <td>5</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>採択テーマ一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>採択番号</th> <th>採択テーマ</th> <th>採択状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>電波が使い難い環境下において LED 照明光通信技術を用いて複数端末が同時接続可能な光無線 LAN を実現するための組込みソフトウェアの高度化</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>心拍揺らぎと呼吸から日常生活の中でストレス状態を手軽に知ることが出来る携帯型評価装置とクラウドサービスを実現するための組込みソフトウェアの高度化に関する研究</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>新しいモジュール構造による安価・長寿命で高性能な水処理用セラミックフィルターの開発</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ケナフ繊維複合ボード端材と容器梱包リサイクルプラスチックの複合化による低コスト高強度射出成形自動車部材の開発</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自動車（電気自動車等）の制御向上を実現するパワー半導体・縦型デバイス用途の新たな HVPE 法を用いた GaN 単結晶成長技術による GaN ウェハの開発</td> <td>新規</td> </tr> </tbody> </table>	支援件数	採択件数	採択率	53 件	25 件	47%	申請テーマ数	採択数	採択率	6（うち新規 3）	5	83%	採択番号	採択テーマ	採択状況	1	電波が使い難い環境下において LED 照明光通信技術を用いて複数端末が同時接続可能な光無線 LAN を実現するための組込みソフトウェアの高度化	継続	2	心拍揺らぎと呼吸から日常生活の中でストレス状態を手軽に知ることが出来る携帯型評価装置とクラウドサービスを実現するための組込みソフトウェアの高度化に関する研究	継続	3	新しいモジュール構造による安価・長寿命で高性能な水処理用セラミックフィルターの開発	継続	4	ケナフ繊維複合ボード端材と容器梱包リサイクルプラスチックの複合化による低コスト高強度射出成形自動車部材の開発	新規	5	自動車（電気自動車等）の制御向上を実現するパワー半導体・縦型デバイス用途の新たな HVPE 法を用いた GaN 単結晶成長技術による GaN ウェハの開発	新規	<p>年度計画を十二分に達成</p> <p>推進センターによる極めて優れた獲得支援実績</p>
支援件数	採択件数	採択率																																
53 件	25 件	47%																																
申請テーマ数	採択数	採択率																																
6（うち新規 3）	5	83%																																
採択番号	採択テーマ	採択状況																																
1	電波が使い難い環境下において LED 照明光通信技術を用いて複数端末が同時接続可能な光無線 LAN を実現するための組込みソフトウェアの高度化	継続																																
2	心拍揺らぎと呼吸から日常生活の中でストレス状態を手軽に知ることが出来る携帯型評価装置とクラウドサービスを実現するための組込みソフトウェアの高度化に関する研究	継続																																
3	新しいモジュール構造による安価・長寿命で高性能な水処理用セラミックフィルターの開発	継続																																
4	ケナフ繊維複合ボード端材と容器梱包リサイクルプラスチックの複合化による低コスト高強度射出成形自動車部材の開発	新規																																
5	自動車（電気自動車等）の制御向上を実現するパワー半導体・縦型デバイス用途の新たな HVPE 法を用いた GaN 単結晶成長技術による GaN ウェハの開発	新規																																

■やまぐち産業振興財団の助成金獲得支援状況

	研究課題	技術革新計画承認から財団の助成金獲得
1	ワーニングシグナル機能付コンクリートはく落防止・表面保護工法の開発	○
2	防腐・防蟻性能及び難燃性を有した木材の開発	○
3	マイクロウェーブを用いたリサイクル処理	
4	新たな刺身商材の開発	
5	フレキシブル組立式鋳鉄製小型簡易魚礁の開発	

■公設試との共同による国の提案公募採択件数 2件

課題名	提案公募名
日本酒の生産拡大と集落営農法人の収益向上を目指したICT活用による酒米生産支援システムの確立	平成 26 年度補正事業 農林水産業の革新的技術緊急展開事業
中山間地域の活力創造に向けた、加工用畑ワサビの高収益輪作モデルの実証	平成 26 年度補正事業 農林水産業の革新的技術緊急展開事業

■イノベーション推進センターによる獲得支援 29件

	課題名	提案公募名
1	個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発	平成 25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）
2	めまい診断用次世代フレンチェル眼鏡と眼球運動解析システムの開発と実用化	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）
3	医療・健康分野における水素応用技術開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）
4	省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化	平成 25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）
5	予防医学に基づく機能性魚肉練り製品の開発と世界展開	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）
6	てんかん病態の多角的計測による局所脳冷却制御技術の開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）
7	再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発および培養システムの確立	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）
8	酵母を用いた多種類のウイルスタンパク質の安価な製造法とウイルス検査薬の開発	平成 27 年度新産業創出研究会（ちゅうごく産業創造センター）

			9	癌の予防研究に資する水溶性発光色素の開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (技術シーズ調査枠)			
			10		平成 27 年度新産業創出研究会 (ちゅうごく産業創造センター)			
			11	優れた形状保持機構を持つ生分解性ポリマーステントの開発	平成 27 年度新産業創出研究会 (ちゅうごく産業創造センター)			
			12	作成難易度が高い環境を再現できる手術技能練習キットの開発	キューテック/(一財)ふくおかフィナンシャルグループ 企業育成財団			
			13	蛍光トナーによる新たな徘徊見守りシステムの実用化に関する調査研究	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (技術シーズ)			
			14	多光子励起顕微鏡を用いて生体組織深部での細胞の協奏的な働きを可視化する発光材料の開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (技術シーズ)			
			15	タンパク質性バイオ医薬品の高度精製法の開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (技術シーズ)			
			16	テーラーメイド医療をめざした分子標的薬至適投与量決定のための薬物動態解析および遺伝子チップの応用	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (技術シーズ)			
			17	高品位 GaN 基板の開発	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター			
			18	パワーデバイス用高品質 GaN 基板の開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (一般枠)			
			19	硫黄を基剤とする機能性材料の調整と応用	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (技術シーズ)			
			20	世界初 純水素型燃料電池コジェネレーションシステムの開発及び水素需要の拡大	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (研究開発・実証試験、大規模枠)			
			21	新規フッ素系不燃性溶媒の研究開発	平成 25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (大規模枠)			
			22	パワー半導体デバイス向け放熱材料の開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (大規模枠)			
			23	新規光機能性高分子の開発及び生産	平成 25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (一般枠)			
			24	油汚染物の最適処理技術の開発	平成 25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (一般枠)			
			25	海水濃縮技術を応用した濃度差発電システムおよび海水からの希少資源回収システムの実用化開発	平成 26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金 (研究開発・実証試験、一般枠)			
			26	CNT 光触媒の基本構造設計	ENEOS 水素基金			
			27		JST A-STEP 顕在化型			
			28	色素内包 CNT 光触媒	やまぎん地域企業助成基金			
			29		中国電力技術研究財団			
			<p>※平成 25 年度事業は、継続審査を受け採択されたもの、平成 27 年度については、平成 26 年度内に採択通知を付けたものを記載</p>					

大項目	第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進

中 期 目 標	<p>&lt; 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進に関する目標 &gt;</p> <p>本県産業を支える中小企業のものづくり力の高度化・ブランド化の推進に資するため、事業化戦略を踏まえた実用化研究に重点的に取り組み、その成果の普及を図るとともに、当該成果を活用した事業化の取組を支援する。</p> <p>また、関係機関との緊密な連携の下、各種技術研究会活動を積極的に展開するとともに、研究開発計画の策定や必要となる資金の獲得を支援し、企業の技術革新の取組を促進する。</p>
------------------	---

第 1 - 2 ( 1 ) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等												
<p>実用化研究への取組</p> <p>企業のニーズや県の産業振興施策の動向を踏まえつつ、事業化を視野に入れた実用化研究に重点的に取り組む。</p> <p>具体的には、第 2 期「技術戦略」の中で、以下の 3 つの方向性に沿ってセンターが研究開発を行う技術（重点技術）と当該重点技術ごとの取組方針や実施工程（ロードマップ）を明示し、センターの研究開発を計画的に行う。</p> <p>① 戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <p>② 県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <p>③ 地域の魅力を活かした製品開発のための企画段階からのセンターの参画</p>	<p>実用化研究への取組</p> <p>実用化研究を実施する上で核となる重点技術を明示し、重点技術ごとのロードマップを策定して、センターが今後取り組むべき技術を県内企業に発信する。</p> <p>具体的には、第 2 期「技術戦略」の中で、以下の 3 つの方向性に沿って、センターの研究開発を計画的に行う技術（重点技術）と当該重点技術ごとの取組方針や実施工程（ロードマップ）を明示する。</p> <p>なお、各方向性における平成 26 年度の主な研究開発テーマは、次のとおりである。</p> <p>① 戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発</li> <li>LED 等光技術を応用した農業支援技術の開発</li> </ul>	4	<p>平成 27 年 3 月に「技術戦略－第 2 期－[ロードマップ]」を策定し、刊行した。</p> <p>事業化研究が順調に進み、<u>7 テーマ中 3 テーマで企業による事業化</u>が行われた。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">研究テーマ</td> <td>水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発</td> </tr> <tr> <td colspan="2">進捗状況（100%）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">昨年度試作した実験システムに、廃熱回収システム及び負荷変動追従制御システムを追加構築及び実験を行い、コジェネレーションシステムとしての総合効率を確認した。また、低カロリーバイオガスに対応するため、点火・燃料噴射タイミング制御システム及び混合ガス供給システムを追加構築した。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>LED等光技術を応用した農業支援技術の開発</td> </tr> <tr> <td colspan="2">進捗状況（120%）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">メッセージフルーツ作製技術の開発については、光学シミュレーションを用いて大量生産用着色装置を検討し、結果に基づき装置を試作した。その装置を用いた青森県生産者による試験では、十分な着色が確認された。また、県外産のりんごに対する着色試験を実施し、着色に適する品種の確認を行った。<u>本研究開発における共同研究企業がメッセージりんごを作製し、国内流通メーカーによる試験販売を開始した。</u>また、県内りんご農園において開発技術の一部導入が開始された。</td> </tr> </table>	研究テーマ	水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発	進捗状況（100%）		昨年度試作した実験システムに、廃熱回収システム及び負荷変動追従制御システムを追加構築及び実験を行い、コジェネレーションシステムとしての総合効率を確認した。また、低カロリーバイオガスに対応するため、点火・燃料噴射タイミング制御システム及び混合ガス供給システムを追加構築した。		研究テーマ	LED等光技術を応用した農業支援技術の開発	進捗状況（120%）		メッセージフルーツ作製技術の開発については、光学シミュレーションを用いて大量生産用着色装置を検討し、結果に基づき装置を試作した。その装置を用いた青森県生産者による試験では、十分な着色が確認された。また、県外産のりんごに対する着色試験を実施し、着色に適する品種の確認を行った。 <u>本研究開発における共同研究企業がメッセージりんごを作製し、国内流通メーカーによる試験販売を開始した。</u> また、県内りんご農園において開発技術の一部導入が開始された。		<p>年度計画を十分達成</p> <p>3 テーマで事業化を達成</p>
研究テーマ	水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発															
進捗状況（100%）																
昨年度試作した実験システムに、廃熱回収システム及び負荷変動追従制御システムを追加構築及び実験を行い、コジェネレーションシステムとしての総合効率を確認した。また、低カロリーバイオガスに対応するため、点火・燃料噴射タイミング制御システム及び混合ガス供給システムを追加構築した。																
研究テーマ	LED等光技術を応用した農業支援技術の開発															
進捗状況（120%）																
メッセージフルーツ作製技術の開発については、光学シミュレーションを用いて大量生産用着色装置を検討し、結果に基づき装置を試作した。その装置を用いた青森県生産者による試験では、十分な着色が確認された。また、県外産のりんごに対する着色試験を実施し、着色に適する品種の確認を行った。 <u>本研究開発における共同研究企業がメッセージりんごを作製し、国内流通メーカーによる試験販売を開始した。</u> また、県内りんご農園において開発技術の一部導入が開始された。																

<p>② 県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鋼板の塑性加工における曲率制御技術に関する研究</li> <li>炭素繊維強化プラスチックにおける研削穴開けの高速化に関する研究</li> <li>高熱伝導性フィラーのための表面処理技術の開発</li> </ul> <p>③ 地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発</li> <li>乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>鋼板の塑性加工における曲率制御技術に関する研究</td> </tr> <tr> <td>進捗状況 (100%)</td> <td> <p>一方向の曲率制御技術については、ローラーによるR曲げ加工を対象に大変形及び摩擦を考慮したCAE解析を行い、スプリングバック量などが実験結果に一致することを確認した。この解析結果と円弧の幾何学的特性から、特定のR寸法を得るための加工条件（ローラーサイズ、曲げ角度等）の推定法を確立した。</p> <p>二方向の曲率制御技術については、楕円体成形を対象に、数パターンベース形状に対する成形解析を行い、目標形状との形状差や体積差を小さくできるベース形状の推定法を確立した。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ	鋼板の塑性加工における曲率制御技術に関する研究	進捗状況 (100%)	<p>一方向の曲率制御技術については、ローラーによるR曲げ加工を対象に大変形及び摩擦を考慮したCAE解析を行い、スプリングバック量などが実験結果に一致することを確認した。この解析結果と円弧の幾何学的特性から、特定のR寸法を得るための加工条件（ローラーサイズ、曲げ角度等）の推定法を確立した。</p> <p>二方向の曲率制御技術については、楕円体成形を対象に、数パターンベース形状に対する成形解析を行い、目標形状との形状差や体積差を小さくできるベース形状の推定法を確立した。</p>
	研究テーマ	鋼板の塑性加工における曲率制御技術に関する研究			
	進捗状況 (100%)	<p>一方向の曲率制御技術については、ローラーによるR曲げ加工を対象に大変形及び摩擦を考慮したCAE解析を行い、スプリングバック量などが実験結果に一致することを確認した。この解析結果と円弧の幾何学的特性から、特定のR寸法を得るための加工条件（ローラーサイズ、曲げ角度等）の推定法を確立した。</p> <p>二方向の曲率制御技術については、楕円体成形を対象に、数パターンベース形状に対する成形解析を行い、目標形状との形状差や体積差を小さくできるベース形状の推定法を確立した。</p>			
	<table border="1"> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>炭素繊維強化プラスチックにおける研削穴開けの高速化に関する研究</td> </tr> <tr> <td>進捗状況 (100%)</td> <td> <p>穴開け加工時におけるスラスト力の低減及び切り屑排出性の向上を目的とした研削工具について、検討と試作を行った。また、試作工具を用いた加工実験により、適切な加工条件の検討を行った結果、従来工具では1穴約90秒の加工時間を、当初の目標である1穴6秒を上回る約5秒に短縮し、穴開け加工の高速化を実現した。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ	炭素繊維強化プラスチックにおける研削穴開けの高速化に関する研究	進捗状況 (100%)	<p>穴開け加工時におけるスラスト力の低減及び切り屑排出性の向上を目的とした研削工具について、検討と試作を行った。また、試作工具を用いた加工実験により、適切な加工条件の検討を行った結果、従来工具では1穴約90秒の加工時間を、当初の目標である1穴6秒を上回る約5秒に短縮し、穴開け加工の高速化を実現した。</p>
	研究テーマ	炭素繊維強化プラスチックにおける研削穴開けの高速化に関する研究			
	進捗状況 (100%)	<p>穴開け加工時におけるスラスト力の低減及び切り屑排出性の向上を目的とした研削工具について、検討と試作を行った。また、試作工具を用いた加工実験により、適切な加工条件の検討を行った結果、従来工具では1穴約90秒の加工時間を、当初の目標である1穴6秒を上回る約5秒に短縮し、穴開け加工の高速化を実現した。</p>			
	<table border="1"> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>高熱伝導性フィラーのための表面処理技術の開発</td> </tr> <tr> <td>進捗状況 (120%)</td> <td> <p>開発した表面処理技術によりコーティングした県産フィラー（窒化アルミニウム、酸化マグネシウム）は、耐水性（120℃オートクレーブ）と耐溶剤性があり、熱伝導性塗料やシート成形品に利用可能であることを確認した。また、本研究開発の共同研究企業において、窒化アルミニウムフィラーへの表面処理が事業化された。</p> <p>関連して、本研究で開発した表面処理技術を応用し、廃トナーを原料とした顔料を開発した。この顔料を用いることで漆喰塗料の彩色化に成功し、特許を出願し、県内企業で事業化された。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ	高熱伝導性フィラーのための表面処理技術の開発	進捗状況 (120%)	<p>開発した表面処理技術によりコーティングした県産フィラー（窒化アルミニウム、酸化マグネシウム）は、耐水性（120℃オートクレーブ）と耐溶剤性があり、熱伝導性塗料やシート成形品に利用可能であることを確認した。また、本研究開発の共同研究企業において、窒化アルミニウムフィラーへの表面処理が事業化された。</p> <p>関連して、本研究で開発した表面処理技術を応用し、廃トナーを原料とした顔料を開発した。この顔料を用いることで漆喰塗料の彩色化に成功し、特許を出願し、県内企業で事業化された。</p>
	研究テーマ	高熱伝導性フィラーのための表面処理技術の開発			
	進捗状況 (120%)	<p>開発した表面処理技術によりコーティングした県産フィラー（窒化アルミニウム、酸化マグネシウム）は、耐水性（120℃オートクレーブ）と耐溶剤性があり、熱伝導性塗料やシート成形品に利用可能であることを確認した。また、本研究開発の共同研究企業において、窒化アルミニウムフィラーへの表面処理が事業化された。</p> <p>関連して、本研究で開発した表面処理技術を応用し、廃トナーを原料とした顔料を開発した。この顔料を用いることで漆喰塗料の彩色化に成功し、特許を出願し、県内企業で事業化された。</p>			
	<table border="1"> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発</td> </tr> <tr> <td>進捗状況 (120%)</td> <td> <p>当センター保有の設備により、鯨油、牛脂等種々の油脂の精製および分析が可能であることを確認した。また、鯨油の水素添加方法を確立し、水素添加により安定化した鯨油や温泉水を利用した石鹼の商品化を県内企業が行った。ごま油については、脱臭方法を確立した。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ	県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発	進捗状況 (120%)	<p>当センター保有の設備により、鯨油、牛脂等種々の油脂の精製および分析が可能であることを確認した。また、鯨油の水素添加方法を確立し、水素添加により安定化した鯨油や温泉水を利用した石鹼の商品化を県内企業が行った。ごま油については、脱臭方法を確立した。</p>
	研究テーマ	県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発			
	進捗状況 (120%)	<p>当センター保有の設備により、鯨油、牛脂等種々の油脂の精製および分析が可能であることを確認した。また、鯨油の水素添加方法を確立し、水素添加により安定化した鯨油や温泉水を利用した石鹼の商品化を県内企業が行った。ごま油については、脱臭方法を確立した。</p>			
<table border="1"> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価</td> </tr> <tr> <td>進捗状況 (100%)</td> <td> <p>中間水分食品（水分含量20～40%）を保持する乾燥度においては、乾燥温度（40～60℃）や乾燥湿度（40%～60%）の違いによる味覚や色合いへの影響は少ないことを確認した。一方、臭いについては、乾燥温度の影響を受けることを確認した。また、風味に影響を及ぼすメイラード反応を乾燥中に促進するための前処理が、乾燥後の味覚や臭いに影響することを確認した。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ	乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価	進捗状況 (100%)	<p>中間水分食品（水分含量20～40%）を保持する乾燥度においては、乾燥温度（40～60℃）や乾燥湿度（40%～60%）の違いによる味覚や色合いへの影響は少ないことを確認した。一方、臭いについては、乾燥温度の影響を受けることを確認した。また、風味に影響を及ぼすメイラード反応を乾燥中に促進するための前処理が、乾燥後の味覚や臭いに影響することを確認した。</p>	
研究テーマ	乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価				
進捗状況 (100%)	<p>中間水分食品（水分含量20～40%）を保持する乾燥度においては、乾燥温度（40～60℃）や乾燥湿度（40%～60%）の違いによる味覚や色合いへの影響は少ないことを確認した。一方、臭いについては、乾燥温度の影響を受けることを確認した。また、風味に影響を及ぼすメイラード反応を乾燥中に促進するための前処理が、乾燥後の味覚や臭いに影響することを確認した。</p>				



第 1 - 2 ( 2 ) 研究開発成果の普及とその活用

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																													
ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援	ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援	4	<p>研究会や研究（技術）発表会の開催、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信するとともに、研究開発成果を事業化する上で必要となる製品化研究を、技術移転する企業から資金を得て実施した。</p> <p>また、企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行った。</p> <p>イノベーション推進センターによる企業訪問も多くの実績が上がった。</p> <p>共同研究・受託研究では、6件の事業化・商品化実績があった。</p> <p>■巡回技術報告会、技術発表会の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回技術報告会</td> <td>11/26</td> <td>41 名</td> </tr> <tr> <td>技術発表会</td> <td>3/6</td> <td>72名</td> </tr> </tbody> </table> <p>■コーディネータや研究員の企業訪問状況</p> <p>①研究員による巡回企業訪問（県内）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績数</th> <th>進捗度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回企業訪問</td> <td>62 企業</td> <td>98 企業</td> <td>158%</td> </tr> </tbody> </table> <p>②研究員による新規企業訪問（県内）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績数</th> <th>進捗度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規企業訪問</td> <td>31 企業</td> <td>46 企業</td> <td>148%</td> </tr> </tbody> </table> <p>③イノベーション推進センターによる企業訪問</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>企業訪問数</th> <th>述べ訪問回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>117 企業</td> <td>239 回</td> </tr> </tbody> </table>	名称	開催日	参加者数	巡回技術報告会	11/26	41 名	技術発表会	3/6	72名		目標値	実績数	進捗度	巡回企業訪問	62 企業	98 企業	158%		目標値	実績数	進捗度	新規企業訪問	31 企業	46 企業	148%	企業訪問数	述べ訪問回数	117 企業	239 回	<p>年度計画を十分達成</p> <p>精力的な支援を展開</p>
名称	開催日	参加者数																															
巡回技術報告会	11/26	41 名																															
技術発表会	3/6	72名																															
	目標値	実績数	進捗度																														
巡回企業訪問	62 企業	98 企業	158%																														
	目標値	実績数	進捗度																														
新規企業訪問	31 企業	46 企業	148%																														
企業訪問数	述べ訪問回数																																
117 企業	239 回																																
<p>センターの研究開発成果については、研究会や企業訪問等により県内企業に広く発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。</p> <p>また、企業においてセンターの研究開発成果の実用化が滞りなく進捗できるよう、関係職員によるフォローアップを継続的に行う。</p>	<p>研究会や研究（技術）発表会の開催コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信するとともに、研究開発成果を事業化する上で必要となる製品化研究を、技術移転する企業から資金を得て実施する。</p> <p>また、企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行う。</p>																																

			<p>■刊行物の発行状況</p> <table border="1"> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>開放機器一覧2014</td> <td>1000部</td> </tr> <tr> <td>技術戦略―第2期―</td> <td>500部</td> </tr> </table> <p>■ホームページのリニューアル状況</p> <table border="1"> <tr> <th>リニューアル更新日</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>12月1日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップページデザイン一新</li> <li>・技術グループページ等の追加</li> <li>・Googleマップとの連動</li> <li>・イノベーション推進センターサイトの追加</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>■企業から資金を得て実施する共同研究・受託研究の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当グループ</th> <th>共同研究</th> <th>受託研究</th> <th>商品化・事業化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工技術グループ</td> <td>2テーマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電子応用グループ</td> <td>1テーマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料技術グループ</td> <td>8テーマ</td> <td>3テーマ</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>環境技術グループ</td> <td></td> <td>1テーマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>デザイングループ</td> <td></td> <td>2テーマ</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>食品技術グループ</td> <td>2テーマ</td> <td>1テーマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>光応用チーム</td> <td>3テーマ</td> <td></td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16テーマ</td> <td>7テーマ</td> <td>6件</td> </tr> </tbody> </table>	業務報告書	600部	研究報告書	600部	開放機器一覧2014	1000部	技術戦略―第2期―	500部	リニューアル更新日	内容	12月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップページデザイン一新</li> <li>・技術グループページ等の追加</li> <li>・Googleマップとの連動</li> <li>・イノベーション推進センターサイトの追加</li> </ul>	担当グループ	共同研究	受託研究	商品化・事業化	加工技術グループ	2テーマ			電子応用グループ	1テーマ			材料技術グループ	8テーマ	3テーマ	3件	環境技術グループ		1テーマ		デザイングループ		2テーマ	1件	食品技術グループ	2テーマ	1テーマ		光応用チーム	3テーマ		2件	計	16テーマ	7テーマ	6件	
業務報告書	600部																																																			
研究報告書	600部																																																			
開放機器一覧2014	1000部																																																			
技術戦略―第2期―	500部																																																			
リニューアル更新日	内容																																																			
12月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップページデザイン一新</li> <li>・技術グループページ等の追加</li> <li>・Googleマップとの連動</li> <li>・イノベーション推進センターサイトの追加</li> </ul>																																																			
担当グループ	共同研究	受託研究	商品化・事業化																																																	
加工技術グループ	2テーマ																																																			
電子応用グループ	1テーマ																																																			
材料技術グループ	8テーマ	3テーマ	3件																																																	
環境技術グループ		1テーマ																																																		
デザイングループ		2テーマ	1件																																																	
食品技術グループ	2テーマ	1テーマ																																																		
光応用チーム	3テーマ		2件																																																	
計	16テーマ	7テーマ	6件																																																	
イ 知的財産の適切な管理	イ 知的財産の適切な管理	3		年度計画を概ね達成																																																
<p>研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。</p>	<p>研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。</p> <p>また、知財の質を考慮して、審査請求有無、早期審査請求、権利の廃棄・継続について判断するしくみについて検討する。</p>		<p>研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を行った。また、権利の廃棄・継続を判断するしくみについて、他県の状況を調査し、方向性の検討を行った。</p>																																																	

第 1 - 2 ( 3 ) 各種技術研究会活動の積極的展開

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評定	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																				
研究会活動の積極的展開 ものづくり技術の高度化・ブランド化を推進する「やまぐちブランド技術研究会」や、水素エネルギー利活用やスマートファクトリー等を推進する「新エネルギー研究会」など各種技術研究会活動を積極的に展開し、当該研究会会員による研究開発を促進する。	研究会活動の積極的展開 やまぐちブランド技術研究会では、県、やまぐち産業振興財団との一体的な取組により、技術分科会による体系的な技術開発を促進する。 また、セミナー中心の研究会活動と会員単独又は会員共同の技術開発を支援する場としての取組を強化することにより、やまぐちブランド技術革新計画承認支援件数の目標達成を目指す。 さらに、新エネルギー研究会では、分科会で参画企業が新たなビジネスチャンスを発掘できるよう、オープンイノベーションによる研究会活動と実証試験を促進する。	4	<p>先端的試験研究機器として、中国、四国、九州（沖縄県を除く）の公設試験研究機関で初めて金属 3D プリンターを導入し、平成 26 年 10 月に、3D プリンターなどを活用した 3D ものづくりに関連する技術について、情報収集、調査研究などの活動を通じて、県内企業の 3D ものづくり技術の向上を目的として、「やまぐち 3D ものづくり研究会」を新たに立ち上げた。</p> <p>■研究会の開催状況</p> <p>①やまぐちブランド技術研究会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ものづくり関連技術分科会 組込みシステム、精密加工、湿式表面処理、表面改質、熱流体工学、食品加工、デザイン開発の各分科会の合同開催</td> <td>8/5</td> </tr> <tr> <td>○廃棄物リサイクル技術分科会 組込みシステム分科会</td> <td>7/9</td> </tr> <tr> <td>廃棄物リサイクル技術分科会</td> <td>9/12</td> </tr> <tr> <td>廃棄物リサイクル技術分科会（食品系廃棄物 2R チーム）および食品加工技術分科会 合同講習会</td> <td>11/26</td> </tr> <tr> <td>組込みシステム分科会（やまぐちブランド技術研究会）</td> <td>1/15</td> </tr> <tr> <td>食品加工技術分科会 食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会</td> <td>1/21</td> </tr> <tr> <td>湿式表面処理技術分科会</td> <td>2/13</td> </tr> <tr> <td>無機系廃棄物等リサイクルチーム会議</td> <td>2/24</td> </tr> <tr> <td>表面改質技術分科会</td> <td>3/18</td> </tr> </tbody> </table>	内容	開催日	○ものづくり関連技術分科会 組込みシステム、精密加工、湿式表面処理、表面改質、熱流体工学、食品加工、デザイン開発の各分科会の合同開催	8/5	○廃棄物リサイクル技術分科会 組込みシステム分科会	7/9	廃棄物リサイクル技術分科会	9/12	廃棄物リサイクル技術分科会（食品系廃棄物 2R チーム）および食品加工技術分科会 合同講習会	11/26	組込みシステム分科会（やまぐちブランド技術研究会）	1/15	食品加工技術分科会 食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会	1/21	湿式表面処理技術分科会	2/13	無機系廃棄物等リサイクルチーム会議	2/24	表面改質技術分科会	3/18	年度計画を十分達成 新たな研究会の立ち上げ
内容	開催日																							
○ものづくり関連技術分科会 組込みシステム、精密加工、湿式表面処理、表面改質、熱流体工学、食品加工、デザイン開発の各分科会の合同開催	8/5																							
○廃棄物リサイクル技術分科会 組込みシステム分科会	7/9																							
廃棄物リサイクル技術分科会	9/12																							
廃棄物リサイクル技術分科会（食品系廃棄物 2R チーム）および食品加工技術分科会 合同講習会	11/26																							
組込みシステム分科会（やまぐちブランド技術研究会）	1/15																							
食品加工技術分科会 食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会	1/21																							
湿式表面処理技術分科会	2/13																							
無機系廃棄物等リサイクルチーム会議	2/24																							
表面改質技術分科会	3/18																							
			<p>②新エネルギー研究会 新エネルギー研究会及び三つの分科会を開催し、県内企業の参画により試作開発や実証実験を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分科会名</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水素・再生可能エネルギー利用分科会</td> <td>・水素・再生可能エネルギーシステムの実証実験により課題抽出・課題解決のための改良部分の検討を行った。</td> </tr> <tr> <td>スマートファクトリー分科会</td> <td>・スマートファクトリーモデル提案に向けて、コンセプトの検討、必要技術に関する調査や意見交換を行った。 ・県内 5 つのモデル工場では県内複数企業と試作開発したエネルギー監視システムにより、H25 年度に引き続きエネルギー実態調査を行った。 ・H25 年度に県内複数企業と試作開発した小型風力発電システムのフィールド実験を行った。</td> </tr> <tr> <td>液化水素エネルギー分科会</td> <td>・H25 年度に県内複数企業と試作開発した液化水素発電システムにおいて液化水素を用いた発電実験を行った。 ・発電システムの廃熱を利用するための廃熱回収システム等の試作開発を県内複数企業で行った。</td> </tr> </tbody> </table>	分科会名	取組内容	水素・再生可能エネルギー利用分科会	・水素・再生可能エネルギーシステムの実証実験により課題抽出・課題解決のための改良部分の検討を行った。	スマートファクトリー分科会	・スマートファクトリーモデル提案に向けて、コンセプトの検討、必要技術に関する調査や意見交換を行った。 ・県内 5 つのモデル工場では県内複数企業と試作開発したエネルギー監視システムにより、H25 年度に引き続きエネルギー実態調査を行った。 ・H25 年度に県内複数企業と試作開発した小型風力発電システムのフィールド実験を行った。	液化水素エネルギー分科会	・H25 年度に県内複数企業と試作開発した液化水素発電システムにおいて液化水素を用いた発電実験を行った。 ・発電システムの廃熱を利用するための廃熱回収システム等の試作開発を県内複数企業で行った。													
分科会名	取組内容																							
水素・再生可能エネルギー利用分科会	・水素・再生可能エネルギーシステムの実証実験により課題抽出・課題解決のための改良部分の検討を行った。																							
スマートファクトリー分科会	・スマートファクトリーモデル提案に向けて、コンセプトの検討、必要技術に関する調査や意見交換を行った。 ・県内 5 つのモデル工場では県内複数企業と試作開発したエネルギー監視システムにより、H25 年度に引き続きエネルギー実態調査を行った。 ・H25 年度に県内複数企業と試作開発した小型風力発電システムのフィールド実験を行った。																							
液化水素エネルギー分科会	・H25 年度に県内複数企業と試作開発した液化水素発電システムにおいて液化水素を用いた発電実験を行った。 ・発電システムの廃熱を利用するための廃熱回収システム等の試作開発を県内複数企業で行った。																							

		名称		開催日
		水素・再生可能エネルギー利用分科会		6/18
		スマートファクトリー分科会		6/18・10/20・12/17・ 3/25
		新エネルギー研究会		8/27
		スマートファクトリー分科会先進地視察		12/3
		液化水素エネルギー分科会		6/20・9/16・11/21
③やまぐち3Dものづくり研究会【新設】				
		名称		開催日
		やまぐち3Dものづくり研究会キックオフセミナー		12/16
		3Dモデリング活用セミナー		3/4
		やまぐち3Dものづくり研究会		3/30
④その他の研究会等				
		名称		開催日
		「やまぐちものづくり」環境・医療イノベーション創出地域企画運営会議 第1回広域連携研究分科会		7/23
		第1回次世代エネルギー研究会		10/24
		第2回次世代エネルギー研究会の講演会及び意見交換会		1/19
		次世代エネルギー研究会（微細藻類部会）		1/21
		医療機器産業参入セミナー&PMDA薬事戦略相談		3/12

第 1 - 2 ( 4 ) 研究開発計画策定や資金獲得の支援

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																						
<p>国等の提案公募型事業獲得支援</p> <p>県内企業（企業間連携を含む）の技術に対する「強い思い」を新事業展開につなげるために、県の技術革新計画制度等を活用しつつ、研究開発計画の策定や、国等の提案公募型事業（競争的資金）獲得を支援する。</p>	<p>国等の提案公募型事業獲得支援</p> <p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画（シナリオ）策定を支援する。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得を支援する。</p>	5	<p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画（シナリオ）策定を支援した。その結果県の技術革新計画承認6件全てに、やまぐちブランド技術研究会による支援を行った。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得の支援を行った。</p> <p>■やまぐちブランド技術研究会による技術革新計画支援状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研究会名</th> <th>承認数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃棄物リサイクル技術分科会</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>湿式表面処理技術分科会</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>表面改質技術分科会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>食品加工技術分科会</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>■国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得支援状況（詳細はp10～p12参照）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ものづくり補助金の計画書作成支援による採択数</td> <td>25件</td> </tr> <tr> <td>平成26年度戦略的基盤技術高度化支援事業採択数</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>やまぐち産業振興財団の助成金獲得支援</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>公設試との共同による国の提案公募</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>イノベーション推進センター支援による獲得数</td> <td>29件</td> </tr> </tbody> </table>	研究会名	承認数	廃棄物リサイクル技術分科会	4	湿式表面処理技術分科会	1	表面改質技術分科会		食品加工技術分科会	1	項目	件数	ものづくり補助金の計画書作成支援による採択数	25件	平成26年度戦略的基盤技術高度化支援事業採択数	5件	やまぐち産業振興財団の助成金獲得支援	5件	公設試との共同による国の提案公募	2件	イノベーション推進センター支援による獲得数	29件	<p>年度計画を十二分に達成</p> <p>技術革新計画の支援全てで承認 <u>達成率 150%</u></p> <p>国の提案公募型事業に、<u>極めて多くの企業支援実績</u></p>
研究会名	承認数																									
廃棄物リサイクル技術分科会	4																									
湿式表面処理技術分科会	1																									
表面改質技術分科会																										
食品加工技術分科会	1																									
項目	件数																									
ものづくり補助金の計画書作成支援による採択数	25件																									
平成26年度戦略的基盤技術高度化支援事業採択数	5件																									
やまぐち産業振興財団の助成金獲得支援	5件																									
公設試との共同による国の提案公募	2件																									
イノベーション推進センター支援による獲得数	29件																									

第 1 - 2 ( 5 ) 数値目標

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																		
ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 中期計画期間中の 5 年間合計 55 件	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 年間 11 件	3	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 10 件 ■特許等の出願及び新規使用許諾件数の内訳 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>件数</th> <th>目標参考値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特許出願</td> <td>5件</td> <td>8件</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>使用許諾</td> <td>5件</td> <td>3件</td> <td>167%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10件</td> <td>11件</td> <td>91%</td> </tr> </tbody> </table>	内訳	件数	目標参考値	達成度	特許出願	5件	8件	63%	使用許諾	5件	3件	167%	合計	10件	11件	91%	年度計画を概ね達成 達成度 91%		
内訳	件数	目標参考値	達成度																			
特許出願	5件	8件	63%																			
使用許諾	5件	3件	167%																			
合計	10件	11件	91%																			
イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 中期計画期間中の 5 年間合計 20 件	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 年間 4 件	5	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 6 件 ■技術革新計画の内容（公開分：県ホームページ） <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ICチップ検査用基板の再生技術の高度化</td> <td>中国電化工業(株)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>環境に配慮した、汚染土壌の浄化工法に係る技術</td> <td>日立建設(株)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>実践的な手術手技練習キットの開発と吻合補助器の普及販促</td> <td>(株)ヤナギヤ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>混合廃プラスチックの油化装置（テスト機）開発</td> <td>山口興産(株)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td colspan="2">企業の希望により非公開</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td colspan="2">企業の希望により非公開</td> </tr> </tbody> </table>	1	ICチップ検査用基板の再生技術の高度化	中国電化工業(株)	2	環境に配慮した、汚染土壌の浄化工法に係る技術	日立建設(株)	3	実践的な手術手技練習キットの開発と吻合補助器の普及販促	(株)ヤナギヤ	4	混合廃プラスチックの油化装置（テスト機）開発	山口興産(株)	5	企業の希望により非公開		6	企業の希望により非公開		年度計画を十二分に達成 達成度 150%
1	ICチップ検査用基板の再生技術の高度化	中国電化工業(株)																				
2	環境に配慮した、汚染土壌の浄化工法に係る技術	日立建設(株)																				
3	実践的な手術手技練習キットの開発と吻合補助器の普及販促	(株)ヤナギヤ																				
4	混合廃プラスチックの油化装置（テスト機）開発	山口興産(株)																				
5	企業の希望により非公開																					
6	企業の希望により非公開																					

ウ 国等の提案公募型事業の獲得件数 中期計画期間中の5年間合計 30件	ウ 国等の提案公募型事業の獲得件数 年間 6件	5	ウ 国等の提案公募型事業の獲得件数 8件 ■実施契約を伴うもの <table border="1" data-bbox="1463 302 2347 573"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>農林水産業の革新的技術緊急展開事業</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション戦略支援プログラム</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>8件</td> </tr> </tbody> </table> ※参考：企業が申請する提案公募型事業の獲得支援に関するもの <table border="1" data-bbox="1463 617 2347 1157"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>(公財)やまぐち産業振興財団研究開発支援事業助成金</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業（ものづくり補助金）</td> <td>25件</td> </tr> <tr> <td>公益信託 ENEOS 水素基金</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>JST A-STEP 顕在化型</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>キューテック研究開発助成金/(一財)ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>(公財)中国電力技術研究財団助成</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>やまぎん地域企業助成基金</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>やまぐち産業戦略研究開発等補助金</td> <td>20件</td> </tr> <tr> <td>新産業創出研究会（ちゅうごく産業創造センター）</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>59件</td> </tr> </tbody> </table>	提案公募名	獲得件数	戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）	4件	農林水産業の革新的技術緊急展開事業	2件	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター	1件	地域イノベーション戦略支援プログラム	1件	計	8件	提案公募名	獲得件数	戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）	1件	(公財)やまぐち産業振興財団研究開発支援事業助成金	5件	中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業（ものづくり補助金）	25件	公益信託 ENEOS 水素基金	1件	JST A-STEP 顕在化型	1件	キューテック研究開発助成金/(一財)ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団	1件	(公財)中国電力技術研究財団助成	1件	やまぎん地域企業助成基金	1件	やまぐち産業戦略研究開発等補助金	20件	新産業創出研究会（ちゅうごく産業創造センター）	3件	計	59件	年度計画を十二分に達成 達成度 133%
提案公募名	獲得件数																																							
戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）	4件																																							
農林水産業の革新的技術緊急展開事業	2件																																							
スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター	1件																																							
地域イノベーション戦略支援プログラム	1件																																							
計	8件																																							
提案公募名	獲得件数																																							
戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）	1件																																							
(公財)やまぐち産業振興財団研究開発支援事業助成金	5件																																							
中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業（ものづくり補助金）	25件																																							
公益信託 ENEOS 水素基金	1件																																							
JST A-STEP 顕在化型	1件																																							
キューテック研究開発助成金/(一財)ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団	1件																																							
(公財)中国電力技術研究財団助成	1件																																							
やまぎん地域企業助成基金	1件																																							
やまぐち産業戦略研究開発等補助金	20件																																							
新産業創出研究会（ちゅうごく産業創造センター）	3件																																							
計	59件																																							
エ 研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数 中期計画期間中の5年間合計 40件	エ 研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数 年間 8件	5	エ 研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数 10件 ■研究開発・技術支援が事業化（商品化）した内訳 <table border="1" data-bbox="1463 1241 2347 1856"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>南氷洋産クロミンク鯨油を利用したボディソープの製造技術開発</td> <td>研究開発＋技術支援</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>温泉水を利用した雑貨石けんの製造技術支援</td> <td>研究開発＋技術支援</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>リンゴ果皮着色技術の開発～メッセージフルーツへの応用～</td> <td>研究開発</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>プラスチック粉末を用いた着色剤とカラー漆喰塗料</td> <td>研究開発</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>補光による植物病害防除技術の開発</td> <td>研究開発</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>大吟醸酒の酒粕を独自技術で発酵させた『にごり酢』</td> <td>技術支援</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>玉砂利固定具の設計支援</td> <td>技術支援</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>3Dものづくり技術によるエビ形の食品成形用金型の開発支援</td> <td>技術支援</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>医薬品製造用・真空攪拌播潰機の開発</td> <td>技術支援</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ヒノキ精油を利用した浴用化粧料の製品化支援</td> <td>技術支援</td> </tr> </tbody> </table>	1	南氷洋産クロミンク鯨油を利用したボディソープの製造技術開発	研究開発＋技術支援	2	温泉水を利用した雑貨石けんの製造技術支援	研究開発＋技術支援	3	リンゴ果皮着色技術の開発～メッセージフルーツへの応用～	研究開発	4	プラスチック粉末を用いた着色剤とカラー漆喰塗料	研究開発	5	補光による植物病害防除技術の開発	研究開発	6	大吟醸酒の酒粕を独自技術で発酵させた『にごり酢』	技術支援	7	玉砂利固定具の設計支援	技術支援	8	3Dものづくり技術によるエビ形の食品成形用金型の開発支援	技術支援	9	医薬品製造用・真空攪拌播潰機の開発	技術支援	10	ヒノキ精油を利用した浴用化粧料の製品化支援	技術支援	年度計画を十二分に達成 達成度 125%  特に、研究開発が事業化した件数が5件となり飛躍的に伸びた。						
1	南氷洋産クロミンク鯨油を利用したボディソープの製造技術開発	研究開発＋技術支援																																						
2	温泉水を利用した雑貨石けんの製造技術支援	研究開発＋技術支援																																						
3	リンゴ果皮着色技術の開発～メッセージフルーツへの応用～	研究開発																																						
4	プラスチック粉末を用いた着色剤とカラー漆喰塗料	研究開発																																						
5	補光による植物病害防除技術の開発	研究開発																																						
6	大吟醸酒の酒粕を独自技術で発酵させた『にごり酢』	技術支援																																						
7	玉砂利固定具の設計支援	技術支援																																						
8	3Dものづくり技術によるエビ形の食品成形用金型の開発支援	技術支援																																						
9	医薬品製造用・真空攪拌播潰機の開発	技術支援																																						
10	ヒノキ精油を利用した浴用化粧料の製品化支援	技術支援																																						

大項目	第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化

中期目標	<p>&lt;「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化に関する目標&gt;</p> <p>県内企業のものづくりパートナーとして、社会経済情勢の変化に的確に対応した技術力の向上を支援するため、大学や関係機関による研究支援機能や経営支援機能との有機的連携を図り、効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実を図る。</p> <p>また、企業訪問や相談窓口機能を活用した技術相談の充実や、新たな技術課題の掘り起こしに取り組む。</p> <p>さらに、中小企業単独では導入が困難な先端的試験研究機器の計画的整備とその開放など、各種の技術支援サービスを充実する。</p>
------	---

第 1 - 3 ( 1 ) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																								
産学公金の連携	産学公金の連携	3	<p>国・県の緊急的な施策にも積極的に協力し、企業のものづくりや拠点機能を強化した。</p> <p>特に、山口銀行との連携では、共同企業訪問を行い、ものづくり・商業・サービス革新補助金の応募案件の掘り起こしに一定の成果を上げた。また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める次の取組を行った。</p> <p>■国・県の施策への協力状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国関連</th> <th>内容</th> <th>開催日等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国税庁</td> <td>第 59 回全国酒造技術指導機関合同会議</td> <td>10/23</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">広島国税局</td> <td>平成 26 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員の派遣(予審を通過した出品酒について)</td> <td>9/29・30</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員の派遣</td> <td>9/24・25</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年広島国税局清酒鑑評会表彰式及び製造技術研究会</td> <td>10/28</td> </tr> <tr> <td>市販酒類調査の品質評価会</td> <td>1/14・15</td> </tr> <tr> <td>SAKEin 広島</td> <td>4/6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済産業省</td> <td>やまぐち産業振興財団・山口県産業技術センター及び山口県中小企業団体中央会と中国経済産業局との意見交換会</td> <td>6/9</td> </tr> <tr> <td>ものづくり補助金地域採択審査委員会[一次公募(第 2 回締切)]</td> <td>6/11</td> </tr> <tr> <td>ものづくり補助金地域採択審査委員会[二次公募]</td> <td>9/10</td> </tr> </tbody> </table>	国関連	内容	開催日等	国税庁	第 59 回全国酒造技術指導機関合同会議	10/23	広島国税局	平成 26 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員の派遣(予審を通過した出品酒について)	9/29・30	平成 26 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員の派遣	9/24・25	平成 26 年広島国税局清酒鑑評会表彰式及び製造技術研究会	10/28	市販酒類調査の品質評価会	1/14・15	SAKEin 広島	4/6	経済産業省	やまぐち産業振興財団・山口県産業技術センター及び山口県中小企業団体中央会と中国経済産業局との意見交換会	6/9	ものづくり補助金地域採択審査委員会[一次公募(第 2 回締切)]	6/11	ものづくり補助金地域採択審査委員会[二次公募]	9/10	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>金融機関や大学と連携した取組を積極的に行った。</p>
国関連	内容	開催日等																										
国税庁	第 59 回全国酒造技術指導機関合同会議	10/23																										
広島国税局	平成 26 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員の派遣(予審を通過した出品酒について)	9/29・30																										
	平成 26 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員の派遣	9/24・25																										
	平成 26 年広島国税局清酒鑑評会表彰式及び製造技術研究会	10/28																										
	市販酒類調査の品質評価会	1/14・15																										
	SAKEin 広島	4/6																										
経済産業省	やまぐち産業振興財団・山口県産業技術センター及び山口県中小企業団体中央会と中国経済産業局との意見交換会	6/9																										
	ものづくり補助金地域採択審査委員会[一次公募(第 2 回締切)]	6/11																										
	ものづくり補助金地域採択審査委員会[二次公募]	9/10																										
<p>国・県の産業振興施策に積極的に協力するとともに、県内企業の技術力の向上に当たり、センター単独では対応困難な課題をスムーズに解決できるよう、研究支援機能を有する大学・国公設試や民間機関、経営支援機能を有するやまぐち産業振興財団や金融機関等の連携を深める。</p>	<p>国・県の緊急的な施策にも積極的に協力し、企業のものづくりや拠点機能を強化する。</p> <p>また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める次の取組を行う。</p>																											



県関連	内容	開催日等
環境生活部	山口県環境保健センターへの設備機器の相互利用（蛍光 X 線分析装置）	—
	廃棄物 3R 事業化検討業務委託	—
	平成 26 年度山口県リサイクル製品利用促進連絡会議	3/18
商工労働部	次世代産業クラスター形成事業に係るイノベーション推進体制整備に関する業務委託	—
	やまぐち医療関連成長戦略推進協議会シンポジウム企画等委託に係る指名型プロポーザル審査委員会委員	5/15
	山口県中小企業経営革新計画承認審査会	年度内月一回
	やまぐち夢づくり産業支援ファンドに係る関係機関連絡会議	6/9・9/26・2/18
	山口県中小企業人材育成・成長支援事業業務審査委員会	4/30
	平成 26 年度液化水素エネルギー利用製品試作開発推進補助金	5/22～9/30
	やまぐち医療関連成長戦略推進事業（交流・マッチング事業）に係る業務委託	5/30～3/31
	やまぐち地域中小企業育成協議会・実務者会議	2/3・6/13
	やまぐち地域中小企業育成協議会	6/20・2/19
	やまぐち産業人財創造協議会	7/22
	産産マッチング研究開発テーマ発掘調査業務委託に係る指名型プロポーザル審査委員会の設置等について	7/16
	第 4 回やまぐちものづくり&ビジネスフェア 2014 実行委員会	9/18
	平成 27 年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞の推薦順位調整	—
	山口県技術革新計画承認審査委員会委員（就任依頼）	—
	スマートファクトリーモデル構築に関する調査業務委託に係る指名型プロポーザル審査委員会	10/21
	平成 26 年度山口県海外ビジネス研究会第 1 回講演会	10/31
	「やまぐち水素成長戦略推進協議会」の設置及び開催	11/17
	山口県の地域別水素利活用に関する調査業務委託に係る指名型プロポーザル審査委員会	1/6
	山口県海外ビジネス研究会勉強会	1/15・16
	第 6 回山口県産業技術振興奨励賞選考委員会	2/10
	公設試験研究機関の連携強化に係る検討に向けた調査について	—
平成 27 年度商工労働部課長・出先機関等の長合同会議	4/6	
土木建築部	景観学習用教材等作成プロジェクトチーム	3/26

※大学：  
山口大学との包括連携協定の実効性のある取組、やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営

農林水産部	平成 26 年度山口県試験研究機関技術交流協議会第 1 回幹事会	7/30
	平成 26 年度山口県試験研究機関技術交流協議会第 1 回機関長会	8/21
	「やまぐち農山漁村女性起業統一ブランド」認定審査会	8/28
	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進協議会設立会議	7/17・9/19・ 1/14・3/17
	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進事業（補助金）審査会	10/27
	第 2 回やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進事業審査会	3/16
山口県下関 県民局	第 12 回長州企業フェスタ	10/4・5
産業戦略部	山口県ふるさと産業振興推進協議会（農商工連携部会）WG 会議	7/28

■大学：山口大学との包括連携協定の実効性のある取組、やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営等の取組状況

①共同研究

以下の共同研究を行い、県内企業で事業化を達成した。

研究テーマ	LED光を用いた植物病害防除システムの開発、及びその植物病害防除システムを利用した薬用植物栽培方法の開発
-------	--

②産学公金連携によるセミナーの共同開催等

	セミナー名	日程	場所
1	「新しい人材育成プログラムを活用したものづくり」セミナー	6/25	センター多目的ホール
2	「ものづくり共同研究の推進と成功例」セミナー	8/25	山口大学
3	産学公金の連携確立によるものづくりセミナー	10/21	海峡メッセ
4	「新しい人材育成プログラムを活用したものづくり」セミナー	12/18	センター多目的ホール
5	医療現場におけるニーズ発表会&医療研究者との交流会	8/26 9/29 10/27	山口大学医学部

③研究委託

	事業名	研究テーマ
1	廃棄物 3R 事業化検討業務	小型家電リサイクルの事業化に関する研究
2	廃棄物 3R 事業化検討業務	建設発生土の物性試験および土壌固化剤による固化実験のデータ解析
3	新エネルギー利活用プロジェクト	極低温保存容器の熱流体解析

④提案公募など競争的資金獲得に関する協力

	事業名
1	H26年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」
2	グローバルアントレプレナー育成促進事業
3	次世代農業技術者育成プログラム
4	高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム
5	JST研究成果展開事業

⑤研究員の講師派遣

	事業名
1	公開講座「実用講座真空技術の基礎と応用」

⑥委員会委員の就任等による協力

	事業名
1	山口大学農学部及び共同獣医学部附属中高温微生物研究センター評価委員会委員
2	URA企画支援委員会

⑦研究開発成果の展示

	事業名	機器名
1	山口大学オープンキャンパス	ストレス解析装置及びパネル

⑧見学の受入

	学部名	受入日	受入人数
1	山口大学農学部生物資源環境科学科	9/19	41名

⑨研究職員の技術研修会への派遣

	講座名	開催日	派遣人数
1	第121回講習会「機械工学の基礎講習会」	10/9・10	1名

⑩学協会等への共同研究の発表

	学会名	開催日	発表テーマ
1	日本生薬学会	9/14	405nm紫色光照射によるムラサキの病害防除技術の開発
2	第36回風力エネルギー利用シンポジウム	11/28	小型直線翼垂直軸型風車性能へ及ぼすレイノルズ数の影響

⑪やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営等の取組状況

	機器名	利用件数
1	フィールドエミッションオージェ電子顕微鏡	73件
2	レーザー干渉平面度測定装置	2件
3	干渉膜厚計	1件
4	X線CT装置	179件
	計	255件

※国公設試：  
技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組

■国公設試：技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組状況

①技術相談で、外部機関を紹介した件数

対応状況	件数
ファックス	2件
電子メール	11件
電話	34件
企業訪問	7件
来所	9件
計	63件

②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況

会議などの名称	開催年月日
地域新産業創出基盤強化事業に係る情報交換	4/9
平成26年度第15回デザイン分科会	6/12・13
第87回公立鉦工業試験研究機関長協議会総会	6/19・20
産業技術連携推進会議製造プロセス部会 第21回表面技術分科会	6/19・20
平成26年度産技連四国地域部会食品分析フォーラム推進会議	9/3・4
第105回全国公設鉦工業試験研究機関事務連絡会議	9/4・5
産業技術連携推進会議情報通信・エレクトロニクス部会	9/25・26
中国地域公設研所長会議 in 福島	10/2・3
産業技術連携推進会議地域部会中国四国食品関係合同分科会	10/16・17
産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会第52回高分子分科会	10/23・24
産業技術連携推進会議製造プロセス部会 表面技術分科会平成26年度第1回DLC技術研究会	10/23・24
平成26年度水産利用関係研究開発推進会議	11/13
第1回中国地域産業技術連携推進会議	11/25
産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会素形材分科会（第55回）全国公設試験研究機関素形材技術担当者会議	11/26・27
産業技術連携推進会議平成26年度知的基盤部会総会及び計測分科会	12/4・5
産技連中国及び四国地域部会 中国四国地域公設試験研究機関研究者合同研修会	12/4・5
産業技術連携推進会議 中国地域部会・四国地域部会合同 環境・エネルギー技術分科会	12/11・12
産技連中国地域部会 機械・金属技術分科会	12/18
第2回中国地域連携推進企画分科会	1/16
平成26年度中国四国地方公設試験研究機関共同研究（精密加工分野）推進協議会	1/30
第2回中国地域産業技術連携推進会議	2/3・4
第55回産業技術連携推進会議総会	2/13
産総研本格研究ワークショップ in おかやま	2/24
平成26年度中国・四国公設試験研究機関企画担当者会議	3/4
全国公立鉦工業試験研究機関長協議会 第2回知的財産に係る分科会	3/6

■中国地域連携による取組状況

①研究交流

	会議などの名称	日程
1	中国地域公設研所長会議in福島における、福島再生可能エネルギー研究所との研究交流	10/2

②機器導入

	事業名	導入機器	事業管理機関
1	平成25年度補正地域オープンイノベーション促進事業	味認識装置 におい識別装置	(公財)ちゅうごく産業創造センター

③(公財)ちゅうごく産業創造センターとの連携による取組状況

会議などの名称	開催日
平成25年度補正予算事業「地域オープンイノベーション促進事業(中国地域)」の運営協議会、幹事会委員	5/28 9/2
平成25年度補正予算事業「地域オープンイノベーション促進事業(中国地域)」に係る協定締結	7/30
平成26年度第1回環境・エネルギー技術事業化交流会	6/26
3次元動作・形状計測システム機器操作説明会	10/24
平成26年度「国の研究開発事業応募に向けた勉強会」(競争力強化のチャンスをつかめ)	12/16
地域オープンイノベーション促進事業/機器操作講習会、幹事会	1/14
地域オープンイノベーション促進事業(運営協議会の設置及び運営に関する業務)(中国地域) 第4回運営協議会(兼幹事会)	2/19

④機器導入に係る研究員の派遣研修

会議などの名称	場所	派遣日
味認識装置技術研鑽会	広島県立総合技術研究所	3/9

■九州・山口知事会による公設試連携の取組状況

①九州地域の企業からの技術相談対応

県名	件数
福岡県	233件
大分県	5件
熊本県	24件
佐賀県	13件
長崎県	5件
計	280件

②共同研究

	研究テーマ
1	ロボット開発関連技術研究会
2	三次元CAD/CAMおよびCAEを活用した生産工程の高度化に関する研究
3	EMC測定(エミッション)における各公設試間の相関性の検討

※民間機関：  
依頼試験・開放機器の補完関係を構築、建材試験センター、民間試験機関等

※金融機関：  
山口フィナンシャルグループ等との包括連携協定の実効性のある取組

■民間機関：依頼試験・開放機器の補完関係を構築に関する状況（建材試験センター、民間試験機関等）

平成 26 年度は、新たに補完関係を構築した民間機関はなかった。企業の相談に対応し、現在 29 の機関又は、他県公設試と連携している。

■金融機関：山口フィナンシャルグループ等との包括連携協定の実効性のある取組状況

①産学公金連携によるセミナーの共同開催等（再掲 p24）

	セミナー名	日程	場所
1	「新しい人材育成プログラムを活用したものづくり」セミナー	6/25	センター多目的ホール
2	「ものづくり共同研究の推進と成功例」セミナー	8/25	山口大学
3	産学公金の連携確立によるものづくりセミナー	10/21	海峡メッセ
4	「新しい人材育成プログラムを活用したものづくり」セミナー	12/18	センター多目的ホール
5	医療現場におけるニーズ発表会&医療研究者との交流会	8/26 9/29 10/27	山口大学医学部

②産学公金メンバーとの情報交換会への参加

	セミナー名	日程	場所
1	地域創生に向けた産学公金連携懇談会	1/8	山口グランドホテル

③山口銀行が主催するものづくり・商業・サービス革新補助金相談会への相談員派遣

場所	日程	派遣相談員数
山口支店	3/11	1名
やまぎん資料館	3/13	1名
宇部支店	3/16	2名
岩国支店	3/17	1名
徳山支店	3/18	1名
萩支店	3/19	1名

④山口銀行との共同企業訪問

山口銀行との共同企業訪問数	17社
---------------	-----

⑤審査会審査委員

やまぎん地域企業助成基金推薦企業審査会	10/8
---------------------	------

⑥その他金融機関が主催する展示会への出展および技術相談対応

第 7 回山口県しんきん合同ビジネスフェア	5/14	山口県国際総合センター
-----------------------	------	-------------

※やまぐち産業振興財団：  
センターと企業支援の両輪として  
連携した取組

■やまぐち産業振興財団：センターと企業支援の両輪として連携した取  
組状況

①やまぐち産業振興財団が主催する事業への協力

主要な内容	日程等
知財相談窓口の設置	通年（センター2 階）
日台産業協力架け橋プロジェクト実行委員会委員	委員就任
戦略的基盤技術高度化支援事業に係る研究開発推進会議	委員就任
「技術開発等審査委員会」委員	委員就任
成長支援企業選定委員会	委員就任
やまぐち地域中小企業育成事業審査委員会	委員就任
「元気企業サポート委員会」（やまぐち夢づくり産業支援ファンド審査会）	4/17・8/6
平成 26 年度小規模企業者等設備導入資金審査委員会	4/25・7/25・8/2・ 9/2・10/27・11/24
平成 26 年度地域産業成長促進事業に係る委託契約の締結	5/14～3/31
インドネシア経済セミナーの後援	5/29・9/24・12/5・ 1/30
第一回やまぐち認定支援機関等連携推進協議会	5/30
日台産業協力架け橋プロジェクト台湾商談会	6/1～7
山口県よろず支援拠点との連携	6/2～
知財戦略的活用推進事業助成金審査委員会第一回審査委員会	6/13・9/11・10/21・ 11/13
山口県よろず支援拠点開設記念セミナー	6/26
成長支援企業選定委員会	6/27
中小企業外国出願支援事業審査委員会の審査委員	7/17・10/15・12/16
事業可能性評価委員会委員	9/1～
戦略的基盤技術高度化支援事業研究開発委員会委員	10/2～3/31
「新価値創造展 2014」出展者会議	10/3
技術開発等審査委員会（産学公連携・事業化支援助成金）	10/31・3/3
平成 26 年度戦略的基盤技術高度化支援事業「ケナフ繊維複合ボード～」 研究開発委員会	11/7・2/17
平成 26 年度特定テーマ事業化支援補助金第 2 回検討会	1/30

第 1 - 3 ( 2 ) 技術相談の充実

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																												
技術相談の充実	技術相談の充実	3	<p>H21 年度に技術相談室を設置し、技術相談対応の専任者を引き続き配置することで、迅速かつ的確な対応に努めている。平成 26 年度には、<u>開放機器の操作補助員</u>を新たに 2 名増員した。また、グループウェアによる情報共有を週一回行うことで県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力の強化に務めた。</p> <p>サテライト窓口による連携により、<u>温泉水を使った石鹸の製作で商品化を達成した。</u></p> <p>■技術相談室の体制（平成 H26 年度）</p> <p>室長 1 名（専任）                  サブリーダー 1 名（専任）                  サブリーダー 1 名（兼任）                  非常勤嘱託 4 名（専任）                  臨時職員 2 名（専任）</p> <p>■サテライト窓口の取組状況</p> <p>①相談対応件数 131件</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr><th>相談状況</th><th>件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>訪問</td><td>104件</td></tr> <tr><td>来所</td><td>13件</td></tr> <tr><td>電話</td><td>10件</td></tr> <tr><td>FAX</td><td>0件</td></tr> <tr><td>メール</td><td>2件</td></tr> <tr><td>その他</td><td>2件</td></tr> <tr><td>合計</td><td>131件</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr><th>対応状況</th><th>件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>情報提供</td><td>20件</td></tr> <tr><td>産技Cへ相談</td><td>9件</td></tr> <tr><td>開放機器対応</td><td>16件</td></tr> <tr><td>依頼試験対応</td><td>1件</td></tr> <tr><td>外部機関紹介</td><td>1件</td></tr> <tr><td>その他</td><td>84件</td></tr> <tr><td>合計</td><td>131件</td></tr> </tbody> </table> <p>②サテライト窓口のPR活動</p> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tbody> <tr><td>1</td><td>施設利用案内の作成及び窓口への配置</td></tr> <tr><td>2</td><td>しんきん合同ビジネスフェアブース出展PR</td></tr> <tr><td>3</td><td>サテライト窓口のリーフレット送付 1000部</td></tr> <tr><td>4</td><td>サテライト窓口を含む施設利用案内送付 2000部</td></tr> <tr><td>5</td><td>やまぐちものづくり&amp;ビジネスフェアブース出展PR</td></tr> </tbody> </table> <p>③周南地域地場産業との連携による事業化・商品化実績</p> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tbody> <tr> <td>温泉水を利用した雑貨石けんの製造技術支援</td> <td>研究開発+技術支援</td> </tr> </tbody> </table>	相談状況	件数	訪問	104件	来所	13件	電話	10件	FAX	0件	メール	2件	その他	2件	合計	131件	対応状況	件数	情報提供	20件	産技Cへ相談	9件	開放機器対応	16件	依頼試験対応	1件	外部機関紹介	1件	その他	84件	合計	131件	1	施設利用案内の作成及び窓口への配置	2	しんきん合同ビジネスフェアブース出展PR	3	サテライト窓口のリーフレット送付 1000部	4	サテライト窓口を含む施設利用案内送付 2000部	5	やまぐちものづくり&ビジネスフェアブース出展PR	温泉水を利用した雑貨石けんの製造技術支援	研究開発+技術支援	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>相談室員の増員による体制の強化</p>
相談状況	件数																																															
訪問	104件																																															
来所	13件																																															
電話	10件																																															
FAX	0件																																															
メール	2件																																															
その他	2件																																															
合計	131件																																															
対応状況	件数																																															
情報提供	20件																																															
産技Cへ相談	9件																																															
開放機器対応	16件																																															
依頼試験対応	1件																																															
外部機関紹介	1件																																															
その他	84件																																															
合計	131件																																															
1	施設利用案内の作成及び窓口への配置																																															
2	しんきん合同ビジネスフェアブース出展PR																																															
3	サテライト窓口のリーフレット送付 1000部																																															
4	サテライト窓口を含む施設利用案内送付 2000部																																															
5	やまぐちものづくり&ビジネスフェアブース出展PR																																															
温泉水を利用した雑貨石けんの製造技術支援	研究開発+技術支援																																															



第 1 - 3 ( 3 ) 新たな技術課題の掘り起こし

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																										
農商工連携の取組支援 県内企業のものづくり技術を地域資源に有効に活用する観点（技術の地産地消）から、2次産業にとどまらず、1次産業や3次産業の技術課題を掘り起こす取組を強化し、地域資源とものづくり技術とのマッチングや農商工連携・6次産業化による課題解決の取組を支援する。	農商工連携の取組支援 1次産業（農業・漁業）や3次産業（サービス業）の技術課題を掘り起こし、農林総合技術センターや水産研究センター等の県内公設試や医療・福祉・介護機関等からの課題抽出を行い、ものづくり企業や関係機関と連携して課題解決に向けた取組を行う。	4	<p>農林総合技術センター、水産研究センターと共同研究を行った。 農林総合技術センターとの共同研究では、共同研究企業により、事業化を達成した。また、国の提案公募型研究開発事業に申請し採択された。</p> <p>各種農商工連携に関する会議の出席や、審査会への協力などを行った。</p> <p>■農林総合技術センターとの共同研究</p> <table border="1"> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>LED等光技術を用いたリンゴ果皮着色技術の開発【事業化を達成】</td> </tr> </table> <p>■国の提案公募型研究開発事業の採択状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>研究課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度補正事業農林水産業の革新的技術緊急展開事業</td> <td>日本酒の生産拡大と集落営農法人の収益向上を目指したICT活用による酒米生産支援システムの確立 中山間地域の活力創造に向けた、加工用畑ワサビの高収益輪作モデルの実証</td> </tr> </tbody> </table> <p>■6次産業化・農商工連携に係る会議などの出席</p> <table border="1"> <tr> <td>山口県ふるさと産業振興推進協議会（農商工連携部会）WG会議</td> <td>7/28</td> </tr> <tr> <td>山口県試験研究機関技術交流協議会</td> <td>7/30・8/21</td> </tr> <tr> <td>「やまぐち農山漁村女性起業統一ブランド」認定審査会</td> <td>8/28</td> </tr> <tr> <td>やまぐち6次産業化・農商工連携推進協議会設立会議</td> <td>7/17・9/19 1/14・3/17</td> </tr> <tr> <td>やまぐち6次産業化・農商工連携推進事業（補助金）審査会</td> <td>10/27・3/16</td> </tr> <tr> <td>水産利用関係研究開発推進会議</td> <td>11/13</td> </tr> </table> <p>■6次産業化・農商工連携に係る展示会への出展PR</p> <table border="1"> <tr> <td>やまぐち6次産業化・農商工連携ネットワーク促進交流会</td> <td>3/17</td> </tr> </table> <p>■水産研究センターとの共同研究</p> <table border="1"> <tr> <td>研究テーマ</td> <td>試作LED水中灯の実証試験</td> </tr> </table> <p>■審査会への審査員派遣</p> <table border="1"> <tr> <td>農林水産祭参加第46回山口県水産加工展の品評会における審査委員</td> <td>10/22</td> </tr> <tr> <td>第13回「山口海物語」認定委員会</td> <td>1/27</td> </tr> </table>	研究テーマ	LED等光技術を用いたリンゴ果皮着色技術の開発【事業化を達成】	事業名	研究課題	平成26年度補正事業農林水産業の革新的技術緊急展開事業	日本酒の生産拡大と集落営農法人の収益向上を目指したICT活用による酒米生産支援システムの確立 中山間地域の活力創造に向けた、加工用畑ワサビの高収益輪作モデルの実証	山口県ふるさと産業振興推進協議会（農商工連携部会）WG会議	7/28	山口県試験研究機関技術交流協議会	7/30・8/21	「やまぐち農山漁村女性起業統一ブランド」認定審査会	8/28	やまぐち6次産業化・農商工連携推進協議会設立会議	7/17・9/19 1/14・3/17	やまぐち6次産業化・農商工連携推進事業（補助金）審査会	10/27・3/16	水産利用関係研究開発推進会議	11/13	やまぐち6次産業化・農商工連携ネットワーク促進交流会	3/17	研究テーマ	試作LED水中灯の実証試験	農林水産祭参加第46回山口県水産加工展の品評会における審査委員	10/22	第13回「山口海物語」認定委員会	1/27	年度計画を十分達成 事業化を達成し、国の提案公募に申請し採択
研究テーマ	LED等光技術を用いたリンゴ果皮着色技術の開発【事業化を達成】																													
事業名	研究課題																													
平成26年度補正事業農林水産業の革新的技術緊急展開事業	日本酒の生産拡大と集落営農法人の収益向上を目指したICT活用による酒米生産支援システムの確立 中山間地域の活力創造に向けた、加工用畑ワサビの高収益輪作モデルの実証																													
山口県ふるさと産業振興推進協議会（農商工連携部会）WG会議	7/28																													
山口県試験研究機関技術交流協議会	7/30・8/21																													
「やまぐち農山漁村女性起業統一ブランド」認定審査会	8/28																													
やまぐち6次産業化・農商工連携推進協議会設立会議	7/17・9/19 1/14・3/17																													
やまぐち6次産業化・農商工連携推進事業（補助金）審査会	10/27・3/16																													
水産利用関係研究開発推進会議	11/13																													
やまぐち6次産業化・農商工連携ネットワーク促進交流会	3/17																													
研究テーマ	試作LED水中灯の実証試験																													
農林水産祭参加第46回山口県水産加工展の品評会における審査委員	10/22																													
第13回「山口海物語」認定委員会	1/27																													

■ 6次産業化・農商工連携に係る研究開発の推進

研究テーマ	担当グループ
搾汁残渣からのβ-クリプトキサンチン抽出工程の効率化	環境技術グループ
木質バイオマスを用いた炭化物の成形加工技術の開発	
ケナフ繊維複合ボード端材と容器梱包リサイクルプラスチックの複合化による低コスト高強度射出成形自動車部材の開発	材料技術グループ
食品系廃棄物に含まれるポリフェノール類利用技術の開発	食品技術グループ
清酒製造工程における汚染微生物生育抑制技術	
やまぐち山廃酵母の実用化に向けた製造手法の検討	
山口県産茶を用いた和紅茶の開発	
乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価	材料技術グループ 環境技術グループ 食品技術グループ
県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発 【事業化を達成】	
LED等光技術を応用した農業支援技術の開発 【事業化を2件達成】	
LED等光技術を応用した漁業支援技術の開発	光応用チーム

■ 6次産業化・農商工連携に係る企業との共同研究、受託研究（研究テーマは非公開）

共同研究	9テーマ
受託研究	2テーマ

■ 6次産業化・農商工連携に係る機器の導入

導入機器：味認識装置、におい識別装置、色差計を食品技術グループに導入

■ 医療・福祉・介護機関等からの課題抽出と、ものづくり企業や関係機関と連携した課題解決に向けた取組状況

①県からの業務委託による事業の推進

事業名：やまぐち医療関連成長戦略推進事業（交流・マッチング事業／委託期間：5/30～3/31）

医療関連企業見学会	11/28
医療シーン見学会	12/12
医療機器産業参入セミナー&PMDA薬事戦略相談	3/12

②審査委員等委員派遣

やまぐち医療関連成長戦略推進協議会シンポジウム 企画等委託に係る指名型プロポーサル審査	5/15
--	------

③医療現場と連携した取組

医療現場におけるニーズ発表会&医療研究者との交流会	8/26・9/29・10/27
---------------------------	-----------------

④会議等の開催

「やまぐちものづくり」環境・医療イノベーション 創出地域企画運営会議第1回広域連携研究分科会	7/23
---	------

第 1 - 3 ( 4 ) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																
<p>技術支援サービスの充実</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に努めるとともに、専門知識を有する人材を活用した機器操作補助員の拡充により技術支援機能を強化し、以下の技術支援サービスの充実を図る。</p> <p>また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	<p>技術支援サービスの充実</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に努めるとともに、専門知識を有する人材を活用した機器操作補助員の拡充により技術支援機能を強化し、以下の技術支援サービスの充実を図る。</p> <p>また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	3	<p>開放機器、依頼試験利用企業に対し、ニーズ調査を実施し、機器導入計画に反映させた結果、<u>4機器について翌年度の導入が決まった。</u></p> <p>技術支援アンケートでは、90%以上の利用者が満足と回答した。また、企業からの要望により平成25年度より開始した、機器利用研修会を昨年度に引き続き3テーマ開催した。</p> <p>■企業ニーズアンケートの実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td>アンケート配布総数</td> <td>639件</td> </tr> <tr> <td>回答総数</td> <td>203件</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>31.8%</td> </tr> </table> <p>①要望の高かった新規・更新導入機器の中で、27年度に導入が決まった機器</p> <table border="1"> <tr> <td>ポータブル3Dデジタイザー</td> <td rowspan="2">戦略産業支援基盤整備事業</td> </tr> <tr> <td>真空注型システム</td> </tr> <tr> <td>万能試験機 (5KN)</td> <td rowspan="2">JKA</td> </tr> <tr> <td>高速度赤外線サーモグラフィ</td> </tr> </table> <p>■技術支援アンケートの実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td>アンケート配布総数</td> <td>109件</td> </tr> <tr> <td>回答総数</td> <td>103件</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>電話や窓口対応での満足度</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>事務手続き等の満足度</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>技術支援サービスの満足度</td> <td>95%</td> </tr> </table> <p>■開放機器の利用促進を目的とした機器利用研修会の開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3Dモデリング活用セミナー</td> <td>3/4</td> </tr> <tr> <td>電子顕微鏡用波長分散型X線分析装置(WDS)セミナー</td> <td>2/24</td> </tr> <tr> <td>食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会</td> <td>1/21</td> </tr> </tbody> </table> <p>■企業情報の活用促進</p> <p>東京商工リサーチが出版している企業情報 (25,000社) を購入し、支援している関係企業の経営状況の把握を、適切な技術支援の活用に資することとした。</p>	アンケート配布総数	639件	回答総数	203件	回収率	31.8%	ポータブル3Dデジタイザー	戦略産業支援基盤整備事業	真空注型システム	万能試験機 (5KN)	JKA	高速度赤外線サーモグラフィ	アンケート配布総数	109件	回答総数	103件	回収率	94%	電話や窓口対応での満足度	98%	事務手続き等の満足度	95%	技術支援サービスの満足度	95%	研修テーマ	開催日	3Dモデリング活用セミナー	3/4	電子顕微鏡用波長分散型X線分析装置(WDS)セミナー	2/24	食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会	1/21	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>企業のニーズを迅速に反映</p>
アンケート配布総数	639件																																			
回答総数	203件																																			
回収率	31.8%																																			
ポータブル3Dデジタイザー	戦略産業支援基盤整備事業																																			
真空注型システム																																				
万能試験機 (5KN)	JKA																																			
高速度赤外線サーモグラフィ																																				
アンケート配布総数	109件																																			
回答総数	103件																																			
回収率	94%																																			
電話や窓口対応での満足度	98%																																			
事務手続き等の満足度	95%																																			
技術支援サービスの満足度	95%																																			
研修テーマ	開催日																																			
3Dモデリング活用セミナー	3/4																																			
電子顕微鏡用波長分散型X線分析装置(WDS)セミナー	2/24																																			
食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会	1/21																																			

<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放などによる利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放等による利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	3	<p>平成26年4月1日からの消費税増税に素早く対応し、利用料金の改定を行った。また、新規導入機器については、金属3Dプリンターを除く全ての機器を年度内に開放した。</p> <p>計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保した。</p> <p>開放機器一覧2014を作成し、利用企業に配布した。</p>	年度計画を概ね達成																																	
<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	3	<p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行った。</p> <p>■依頼試験、オーダーメイド試験の利用件数</p> <table border="1" data-bbox="1463 835 2347 1066"> <thead> <tr> <th></th> <th>依頼試験総数</th> <th>左のうちオーダーメイド試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数</td> <td>621件</td> <td>125件 (20%)</td> </tr> <tr> <td>試験点数</td> <td>2,192点</td> <td>125点 (6%)</td> </tr> <tr> <td>利用金額 (千円)</td> <td>8,840</td> <td>3,164 (36%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>■オーダーメイド試験推移 (独法化以降)</p> <table border="1" data-bbox="1463 1108 2347 1297"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数 (件)</td> <td>36</td> <td>64</td> <td>102</td> <td>115</td> <td>137</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>利用金額 (千円)</td> <td>479</td> <td>2,432</td> <td>2,859</td> <td>4,014</td> <td>3,348</td> <td>3,164</td> </tr> </tbody> </table>		依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験	利用件数	621件	125件 (20%)	試験点数	2,192点	125点 (6%)	利用金額 (千円)	8,840	3,164 (36%)		H21	H22	H23	H24	H25	H26	利用件数 (件)	36	64	102	115	137	125	利用金額 (千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164	年度計画を概ね達成
	依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験																																			
利用件数	621件	125件 (20%)																																			
試験点数	2,192点	125点 (6%)																																			
利用金額 (千円)	8,840	3,164 (36%)																																			
	H21	H22	H23	H24	H25	H26																															
利用件数 (件)	36	64	102	115	137	125																															
利用金額 (千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164																															
<p>ウ 受託研究・共同研究</p> <p>企業ニーズに即応し、迅速に研究が着手できるように努めるとともに、開始時期や研究期間についても柔軟な対応を行う。</p>	<p>ウ 受託研究・共同研究</p> <p>企業ニーズに即応し、迅速に研究が着手できるように努めるとともに、開始時期や研究期間についても柔軟な対応を行う。</p>	3	<p>企業ニーズに即応し、受託研究・共同研究の受入を行い、開始時期や研究期間についても柔軟に対応した。</p> <p>■受託研究・共同研究の実績と複数年度にまたがる受入状況</p> <table border="1" data-bbox="1463 1591 2279 1738"> <thead> <tr> <th></th> <th>受入件数</th> <th>うち、複数年度にまたがるもの</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同研究</td> <td>16件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>受託研究</td> <td>7件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>		受入件数	うち、複数年度にまたがるもの	共同研究	16件	9件	受託研究	7件	0件	年度計画を概ね達成																								
	受入件数	うち、複数年度にまたがるもの																																			
共同研究	16件	9件																																			
受託研究	7件	0件																																			

エ 技術者研修	エ 技術者研修	3		年度計画を概ね達成																																		
<p>企業の技術者を受け入れる所内研修や職員を企業に派遣する所外研修などを、企業の要望に即応して行うとともに、開始時期や研修期間についても柔軟な対応を行う。</p> <p>また、必要に応じて、技術動向や課題解決手法等に関するセミナーを開催する。</p>	<p>企業の技術者を受け入れる所内研修や職員を企業に派遣する所外研修等を、企業の要望に即応して行うとともに、開始時期や研修期間についても柔軟な対応を行う。</p> <p>また、必要に応じて、技術動向や課題解決手法等に関するセミナーを開催する。</p>		<p>企業の技術者を受け入れる所内研修や職員を企業に派遣する所外研修等を、企業の要望に即応して行った。また、ものづくり研究会の創設や、金属3Dプリンター等新規機器導入に鑑み、企業への利用促進を目的としたセミナーを行った。</p> <p>■技術者受入れ研修の実施状況</p> <table border="1" data-bbox="1463 506 2329 699"> <thead> <tr> <th></th> <th>受入人数</th> <th>受入回数、期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポット研修(2週間以内)</td> <td>11名</td> <td>38回</td> </tr> <tr> <td>学生研修生</td> <td>1名</td> <td>8/31~3/31</td> </tr> <tr> <td>インターンシップ研修生</td> <td>3名</td> <td>21回</td> </tr> <tr> <td>海外技術研修員</td> <td>1名</td> <td>7/14~1/23</td> </tr> </tbody> </table> <p>■企業に派遣する所外研修の実施状況</p> <table border="1" data-bbox="1463 743 2329 898"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣職員数</th> <th>派遣期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表面処理技術の習得</td> <td>2名</td> <td>4/10~3/25</td> </tr> <tr> <td>表面処理技術の習得と環境対策</td> <td>2名</td> <td>9/1~3/31</td> </tr> </tbody> </table> <p>■技術動向や課題解決手法等に関するセミナーの開催状況</p> <table border="1" data-bbox="1463 942 2329 1213"> <thead> <tr> <th>セミナー名</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐち3Dものづくり研究会キックオフセミナー</td> <td>12/16</td> </tr> <tr> <td>食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会</td> <td>1/21</td> </tr> <tr> <td>電子顕微鏡用波長分散型X線分析装置(WDS)セミナー</td> <td>2/24</td> </tr> <tr> <td>3Dモデリング活用セミナー</td> <td>3/4</td> </tr> </tbody> </table>		受入人数	受入回数、期間	スポット研修(2週間以内)	11名	38回	学生研修生	1名	8/31~3/31	インターンシップ研修生	3名	21回	海外技術研修員	1名	7/14~1/23	研修テーマ	派遣職員数	派遣期間	表面処理技術の習得	2名	4/10~3/25	表面処理技術の習得と環境対策	2名	9/1~3/31	セミナー名	開催日	やまぐち3Dものづくり研究会キックオフセミナー	12/16	食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会	1/21	電子顕微鏡用波長分散型X線分析装置(WDS)セミナー	2/24	3Dモデリング活用セミナー	3/4	
	受入人数	受入回数、期間																																				
スポット研修(2週間以内)	11名	38回																																				
学生研修生	1名	8/31~3/31																																				
インターンシップ研修生	3名	21回																																				
海外技術研修員	1名	7/14~1/23																																				
研修テーマ	派遣職員数	派遣期間																																				
表面処理技術の習得	2名	4/10~3/25																																				
表面処理技術の習得と環境対策	2名	9/1~3/31																																				
セミナー名	開催日																																					
やまぐち3Dものづくり研究会キックオフセミナー	12/16																																					
食品開発における味認識装置・におい識別装置活用講習会	1/21																																					
電子顕微鏡用波長分散型X線分析装置(WDS)セミナー	2/24																																					
3Dモデリング活用セミナー	3/4																																					
オ 新事業創造支援センターの効果的活用	オ 新事業創造支援センターの効果的活用	4		年度計画を十分達成																																		
<p>新事業創造支援センターを、県内企業や新規立地企業の技術開発による新事業展開を促進する場として効果的に活用する。</p>	<p>入居メリット(機器利用料の減免措置)や入居要件の緩和(大企業やセンターの支援制度(開放機器、依頼試験、受託研究、共同研究)又は知的財産権を利用する中小企業等のスポット利用)をPRすることにより利用促進を図る。</p>		<p>入居要件を弾力化した制度や入居企業に対する開放機器利用料金の減免措置制度を継続的に実施するとともに、新事業創造支援センターへの入居申請時に、空室状況とあわせて考慮し、1企業最大2室の開発支援室を申請可能とした。</p> <p>また、新事業創造支援センターの利用促進を図るために、パンフレット等を活用して企業へのPRに努めた。</p> <p>■支援センターの入居状況(全12室)</p> <table border="1" data-bbox="1463 1644 1932 1787"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数(企業数)</td> <td>9社 (10室)</td> </tr> </tbody> </table>		H26年度	利用件数(企業数)	9社 (10室)	<p>入居要件を改正し、それが順調に機能</p>																														
	H26年度																																					
利用件数(企業数)	9社 (10室)																																					

第 1 - 3 ( 5 ) 数値目標

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																
ア 技術相談件数  中期計画期間中の 5 年間合計 16,500 件	ア 技術相談件数  年間 3,300 件	4	ア 技術相談件数 3,815 件	年度計画を十分達成 達成度 116%																
イ 訪問企業数  中期計画期間中の 5 年間合計 1,150 社	イ 訪問企業数  年間 230 社	5	イ 訪問企業数 348 社 (うちイノベーション推進センター員による企業訪問数 117 社)	年度計画を十二分に達成 達成度 151%																
ウ 開放機器・依頼試験の利用件数  中期計画期間中の 5 年間合計 15,200 件	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数  年間 3,040 件	5	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数 3,699 件  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度実績</th> <th>項目別目標参考値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放機器利用件数</td> <td>3,078件</td> <td>2,400件</td> <td>128%</td> </tr> <tr> <td>依頼試験利用件数</td> <td>621件</td> <td>640件</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,699件</td> <td>3,040件</td> <td>122%</td> </tr> </tbody> </table>		26年度実績	項目別目標参考値	達成度	開放機器利用件数	3,078件	2,400件	128%	依頼試験利用件数	621件	640件	97%	計	3,699件	3,040件	122%	年度計画を十二分に達成 達成度 122%
	26年度実績	項目別目標参考値	達成度																	
開放機器利用件数	3,078件	2,400件	128%																	
依頼試験利用件数	621件	640件	97%																	
計	3,699件	3,040件	122%																	

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中期目標	<p>&lt;業務運営の改善及び効率化に関する目標&gt;</p> <p>業務運営の更なる効率化に資するため、引き続き理事長のトップマネジメントのもと、運営体制や経営資源の配分について継続的に見直しを行う。</p> <p>また、企業ニーズや社会経済情勢の変化に的確に対応するため、職員の職能開発を計画的に実施するとともに、開かれた法人運営を一層進めることができるよう、法人のサービス業務の「見える化」を図る。</p> <p>さらに、コンプライアンスの確保や情報管理を徹底するとともに、危機管理対策の充実を図る。</p>
------	---

第2-1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中期計画	平成26年度の年度計画	評価	平成26年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
運営体制や経営資源配分の継続的見直し	運営体制や経営資源配分の継続的見直し	3		年度計画を概ね達成
<p>センター運営の一層の効率化を図るため、運営体制や経営資源の配分の在り方について調査検討を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずる。</p> <p>また、その運用状況を踏まえ適時適切な見直しを行う。</p>	<p>運営体制や経営資源の配分について、経営委員会、企業支援委員会における理事長による迅速な意思決定を行う。</p> <p>また、全体会議の開催による全職員の情報共有、若年者と役員との座談会の開催、職員提案制度を実施する。</p> <p>さらに、経営管理部の機能を強化し、他県の状況を調査検討の上、業務の質的な改善、進捗管理と適時適切な見直しを行う。</p>		<p>①主要な役職者等からなる経営委員会と企業支援委員会を合体させた合同会議を、理事長が定期的に招集・開催して、経営面や企業支援サービス面の重要事項の審議を行った。また、より包括的な意志決定を行うため、経営委員会の構成員を見直し、企業支援副部長、産学公連携室長、技術相談室長を加えた。</p> <p>経営委員会開催回数 18回 合同会議（経営委員会＋企業支援委員会）開催回数 5回</p> <p>②全体会議としてメンタルヘルス講習会を実施し、「職場におけるストレスマネジメントについて」と題して外部講師による講演会を開催した。開催日：2/23 参加者数：24名</p> <p>③若年者と役員との座談会を定期的に開催し、その要望をセンター経営に反映させる取組を実施した。</p> <p>④年間を通じて職員提案を受入れ、以下のような運営の改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修室の空調について、利用者の要望を反映させる検討</li> <li>・ホームページの国際化への対応として、英文の組織概要の作成</li> <li>・産技のホームページのリニューアルにあわせて各グループの活動の概要とともに産技のシーズの情報提供</li> <li>・情報ステーションを部分的に飲食可とする</li> </ul> <p>⑤経営管理部の機能強化として、ホームページの管理や、研究報告、業務報告書等刊行物などの編集等の情報発信を担当する職員を新たに配置した。</p>	<p>情報ステーションのレイアウトをリニューアルし、利用者のニーズを反映</p> <p>情報発信の担当者を新たに増員し、体制を強化</p>

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	2 職員の職能開発の計画的実施

第 2 - 2 職員の職能開発の計画的実施

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																																		
職員の職能開発の計画的実施	職員の職能開発の計画的実施	4	<p>研修計画を策定し、計画に基づき体系的・計画的に実施した。新たな取り組みとして、MOT研修では、企業の協力を得、外部講師の指導の下、実際の企業を事例とした実務的な研修を実施した。また、知的財産に係る実務的な研修を、外部講師を招聘し実施した。</p> <p>①中小企業大学校による研修への職員派遣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣期間</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公設試験研究機関研究職員研修</td> <td>1名</td> <td>1/13～1/16</td> <td>中小企業大学校東京校</td> </tr> </tbody> </table> <p>②ひとづくり財団等の研修（能力開発研修等）への職員派遣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣日</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消防学校体験研修</td> <td>2名</td> <td>4/11</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員課程（前期）研修</td> <td>2名</td> <td>4/14～18</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>「主事級課程Ⅰ研修」</td> <td>1名</td> <td>6/10～12</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主査級研修</td> <td>1名</td> <td>8/25</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>グループリーダー課程研修</td> <td>1名</td> <td>8/29</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>フォーティナー・セミナー</td> <td>1名</td> <td>9/3</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主任級課程研修</td> <td>3名</td> <td>10/15～16</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員課程研修（後期）</td> <td>2名</td> <td>10/20～24</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>経営分析基礎講座</td> <td>2名</td> <td>11/14</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>救急手当講習会（普通救命講習Ⅰ）</td> <td>1名</td> <td>12/18</td> <td>山口県宇部総合庁舎</td> </tr> </tbody> </table> <p>③所内研修（新採職員研修、所内事務システム研修等）</p> <p>新規採用職員については、採用後速やかに所内システム、接遇等に関する説明会を開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>内容</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">新規採用職員研修</td> <td>オリエンテーション、所内システム</td> <td>4/2・3</td> </tr> <tr> <td>情報収集、セキュリティ、知的財産管理活用</td> <td>6/2</td> </tr> <tr> <td>研究開発、情報発信</td> <td>9/4</td> </tr> <tr> <td>知財戦略、情報発信、競争的資金獲得</td> <td>10/2・12/2</td> </tr> <tr> <td>県・財団の組織、予算概要</td> <td>2/2</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先	公設試験研究機関研究職員研修	1名	1/13～1/16	中小企業大学校東京校	研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先	消防学校体験研修	2名	4/11	山口県セミナーパーク	新規採用職員課程（前期）研修	2名	4/14～18	山口県セミナーパーク	「主事級課程Ⅰ研修」	1名	6/10～12	山口県セミナーパーク	主査級研修	1名	8/25	山口県セミナーパーク	グループリーダー課程研修	1名	8/29	山口県セミナーパーク	フォーティナー・セミナー	1名	9/3	山口県セミナーパーク	主任級課程研修	3名	10/15～16	山口県セミナーパーク	新規採用職員課程研修（後期）	2名	10/20～24	山口県セミナーパーク	経営分析基礎講座	2名	11/14	山口県セミナーパーク	救急手当講習会（普通救命講習Ⅰ）	1名	12/18	山口県宇部総合庁舎	研修名	内容	開催日	新規採用職員研修	オリエンテーション、所内システム	4/2・3	情報収集、セキュリティ、知的財産管理活用	6/2	研究開発、情報発信	9/4	知財戦略、情報発信、競争的資金獲得	10/2・12/2	県・財団の組織、予算概要	2/2	<p>年度計画を十分達成</p> <p>外部講師を招き、MOT、知財研修の取組を新たに実施</p> <p>国際セミナーで研究員が受賞、知財活用で3件の成果</p>
研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先																																																																			
公設試験研究機関研究職員研修	1名	1/13～1/16	中小企業大学校東京校																																																																			
研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先																																																																			
消防学校体験研修	2名	4/11	山口県セミナーパーク																																																																			
新規採用職員課程（前期）研修	2名	4/14～18	山口県セミナーパーク																																																																			
「主事級課程Ⅰ研修」	1名	6/10～12	山口県セミナーパーク																																																																			
主査級研修	1名	8/25	山口県セミナーパーク																																																																			
グループリーダー課程研修	1名	8/29	山口県セミナーパーク																																																																			
フォーティナー・セミナー	1名	9/3	山口県セミナーパーク																																																																			
主任級課程研修	3名	10/15～16	山口県セミナーパーク																																																																			
新規採用職員課程研修（後期）	2名	10/20～24	山口県セミナーパーク																																																																			
経営分析基礎講座	2名	11/14	山口県セミナーパーク																																																																			
救急手当講習会（普通救命講習Ⅰ）	1名	12/18	山口県宇部総合庁舎																																																																			
研修名	内容	開催日																																																																				
新規採用職員研修	オリエンテーション、所内システム	4/2・3																																																																				
	情報収集、セキュリティ、知的財産管理活用	6/2																																																																				
	研究開発、情報発信	9/4																																																																				
	知財戦略、情報発信、競争的資金獲得	10/2・12/2																																																																				
	県・財団の組織、予算概要	2/2																																																																				



		④外部機関での技術研修			
		研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先
		ひずみゲージ基礎講習会	1名	6/19・20	広成開発ビル(株)共和電業)
		赤外顕微鏡基礎セミナー	1名	6/19・20	日本分光(株)
		SEM基本コースFE-SEM標準コース	1名	7/16~7/18	日本電子(株)
		ガスクロマトグラフ質量分析装置を用いた定量分析	5名	10/22	産業技術センター
		第121回講習会「機械工学の基礎講習会」	1名	10/9・10	山口大学工学部
		実用顕微赤外分析研修	8名	1/23	産業技術センター
		金属積層成型機のトレーニング	2名	1/20~22	(地独)大阪府立産業技術総合研究所
		特許検索セミナー	2名	7/24・8/7・9/8	広島県食品工業技術センター 広島県自治総合研修センター
		清酒官能評価セミナー	1名	4/15・16・10/8	独立行政法人酒類総合研究所東京事務所
		NMI J-NFR I分析技能向上支援プログラム 頭足類技能試験	1名	2/10	すみだ産業会館
		第352回省エネルギー技術講座	1名	3/9	周南地域地場産業振興センター
		⑤MOT研修の実施状況			
		研修テーマ	参加者数	開催日	場所
		経営戦略とマーケティング研修①	30名	7/3~7/4	産業技術センター
		経営戦略とマーケティング研修②	28名	8/6~8/8	産業技術センターと協力企業
		⑥公設試の知的財産戦略と知的財産マネジメント【新規】			
		研修テーマ	参加者数	開催日	場所
		公設試の知的財産戦略と知的財産マネジメント①	10名	12/11	産業技術センター
		公設試の知的財産戦略と知的財産マネジメント②	7名	1/15	産業技術センター
		⑦学協会等への発表			
		内容	件数	備考	
		誌上発表	5件		
		口頭発表	34件	日韓セラミックスセミナー若手研究者賞 受賞者：企業支援部環境技術グループ 細谷専門研究員	
		⑧研究開発、技術支援の事業化(商品化)成果の中で、特許出願に関わるもの			
			成果名	内容	
		1	リンゴ果皮着色技術の開発	特許取得し実施許諾	
2	プラスチック粉末を用いた着色剤とカラー漆喰塗料	特許2件出願し実施許諾			
3	玉砂利固定具の設計支援	特許出願し実施許諾			

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	3 法人サービス業務の「見える化」の推進

第 2 - 3 法人サービス業務の「見える化」の推進

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																								
見える化の推進	見える化の推進	3	<p>センターが中期計画の達成に向けて取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体について、県内企業に分かり易く示すことができるよう第2期「技術戦略」(ロードマップ)を策定し、冊子にして県内企業に配布した。</p> <p>ホームページをリニューアルし、イノベーション推進センターや技術グループの概要を加える等、内容の充実にも努めた。また、県内企業で事業化・商品化が行われた事例については、定期的に成果事例集に加え、速やかにホームページに掲載し、周知した。</p> <p>研究成果の普及を目的として、巡回技術報告会や技術発表会を昨年度に継続して実施した。</p> <p>県内外のイベントに出展して、センターの研究開発・技術支援の取組をPRした。</p> <p>■刊行物の発行状況(再掲p16)</p> <table border="1"> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>開放機器一覧2014</td> <td>1000部</td> </tr> <tr> <td>技術戦略—第2期—</td> <td>500部</td> </tr> </table> <p>■成果発表会などの開催状況(再掲p15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回技術報告会</td> <td>11/26</td> <td>41名</td> <td>第二研修室</td> </tr> <tr> <td>技術発表会</td> <td>3/6</td> <td>72名</td> <td>多目的ホール</td> </tr> </tbody> </table> <p>■県内・県外イベント等でのPR活動状況</p> <p>①県内</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>展示会等の名称</th> <th>場所</th> <th>展示内容</th> <th>日程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐちものづくり&amp;ビジネスフェア</td> <td>維新百年記念公園スポーツ文化センター</td> <td>技術支援成果内容及び技術相談対応</td> <td>11/3・4</td> </tr> <tr> <td>第7回山口県しんきん合同ビジネスフェア</td> <td>山口県国際総合センター</td> <td>技術支援成果内容及び技術相談対応</td> <td>5/14</td> </tr> <tr> <td>LED応用製品等の展示</td> <td>山口県庁1階 パネル展示コーナー</td> <td>LED応用製品に係る県内企業等の研究開発の紹介</td> <td>2/16~3/6</td> </tr> <tr> <td>やまぐち6次産業化・農商工連携ネットワーク促進交流会【新規】</td> <td>やまぐち6次産業化・農商工連携サポートセンター</td> <td>技術支援成果内容及び技術相談対応</td> <td>3/17</td> </tr> </tbody> </table>	業務報告書	600部	研究報告書	600部	開放機器一覧2014	1000部	技術戦略—第2期—	500部	名称	開催日	参加者数	場所	巡回技術報告会	11/26	41名	第二研修室	技術発表会	3/6	72名	多目的ホール	展示会等の名称	場所	展示内容	日程	やまぐちものづくり&ビジネスフェア	維新百年記念公園スポーツ文化センター	技術支援成果内容及び技術相談対応	11/3・4	第7回山口県しんきん合同ビジネスフェア	山口県国際総合センター	技術支援成果内容及び技術相談対応	5/14	LED応用製品等の展示	山口県庁1階 パネル展示コーナー	LED応用製品に係る県内企業等の研究開発の紹介	2/16~3/6	やまぐち6次産業化・農商工連携ネットワーク促進交流会【新規】	やまぐち6次産業化・農商工連携サポートセンター	技術支援成果内容及び技術相談対応	3/17	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>第2期「技術戦略」の策定や、刊行物の発行、成果発表などを計画的に実施</p> <p>ホームページリニューアル</p>
業務報告書	600部																																											
研究報告書	600部																																											
開放機器一覧2014	1000部																																											
技術戦略—第2期—	500部																																											
名称	開催日	参加者数	場所																																									
巡回技術報告会	11/26	41名	第二研修室																																									
技術発表会	3/6	72名	多目的ホール																																									
展示会等の名称	場所	展示内容	日程																																									
やまぐちものづくり&ビジネスフェア	維新百年記念公園スポーツ文化センター	技術支援成果内容及び技術相談対応	11/3・4																																									
第7回山口県しんきん合同ビジネスフェア	山口県国際総合センター	技術支援成果内容及び技術相談対応	5/14																																									
LED応用製品等の展示	山口県庁1階 パネル展示コーナー	LED応用製品に係る県内企業等の研究開発の紹介	2/16~3/6																																									
やまぐち6次産業化・農商工連携ネットワーク促進交流会【新規】	やまぐち6次産業化・農商工連携サポートセンター	技術支援成果内容及び技術相談対応	3/17																																									

②県外

展示会等の名称	場所	展示内容	日程
エコプロダクツ 2014	東京ビッグサイト	やまぐちブランド研究会 6 企業	12/11～13
新価値創造展 2014(中小企業総合展)	東京ビッグサイト	技術支援の製品化事例 3 企業 (やまぐちブランド技術研究会)	11/19～21
中国地域新技術・新製品展示商談会 (ダイハツグループ向け展示商談会)	ダイハツ企業年金基金会館	切削加工におけるオイルレスでの極少量潤滑技術 環境低負荷機械加工技術 (切削)	2/25・26
国際紛体工業展東京 2014	東京ビッグサイト	ヒドロシランを還元剤とした銀ナノ粒子量産製造法の開発	11/26
平成 26 年度中国地域公設試功績者表彰に係る展示	メルパルク広島	センターの活動 P R	3/10

■科学技術教室など、一般を対象とした法人の地域貢献活動

名称	日程	場所	参加者数
夏休みジュニア科学教室 「さまざまな油やろうを使ったろうそくを作ろう」	8/22	産業技術センター	児童 18 名、保護者 12 名
長府企業フェスタ	10/4・5	下関競艇場	100 名/日

■本県産業の現状と歴史が学べるコーナーの創設に係る実施状況  
コーナーの創設に向け、文献調査等から、本県工業の沿革に係る年表を暫定的に作成した。

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	4 コンプライアンスの確保

第 2 - 4 コンプライアンスの確保

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等											
職員教育の継続的实施	職員教育の継続的实施	3	外部講師を活用した職員教育について、外部講師の選定を行った。 27年度当初に全職員を対象に研修を実施した。	年度計画を概ね達成											
労働安全衛生法等の法令遵守や、職員倫理の確保に資する仕組みを適切に運用するとともに、コンプライアンスの確保を徹底するための職員教育を継続的に実施する。	労働安全衛生法等の法規制や職員倫理に関する職員教育を適宜外部講師を活用する等して、魅力ある研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「ハラスメントの防止等について」</td> <td>4/22</td> <td>51名</td> </tr> <tr> <td>5/14</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>72名</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	開催日	参加者数	「ハラスメントの防止等について」	4/22	51名	5/14	21名	計		72名	
研修テーマ	開催日	参加者数													
「ハラスメントの防止等について」	4/22	51名													
	5/14	21名													
計		72名													

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	5 情報管理の徹底

第 2 - 5 情報管理の徹底

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
情報管理の徹底	情報管理の徹底	3	新規採用職員を対象に職員教育を実施した。 ネットワーク担当者会議を開催し、情報セキュリティに関する対策を協議し、セキュリティ機能付きUSBメモリを導入した。また、研修室、情報ステーションなどの無線LANの使用に向け、必要なセキュリティに関する対策を検討した。また、ネットワーク実務担当者により以下のような情報セキュリティに対する職員への指示伝達を行った。 ・ Windows Updateの実施による欠陥プログラムの修正 ・ 不審な添付ファイルを開かない旨の警告 ・ サーバー内の不要ファイルの削除	年度計画を概ね達成
個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のために必要な措置を講じる。	個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のため、新規採用職員を対象とした職員教育や所内会議等での職員への周知徹底を行う。 また、コンピュータによる情報漏洩に備え、情報セキュリティポリシーの周知徹底を図る。			

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	6 危機管理対策の推進

第 2 - 6 危機管理対策の推進

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等								
危機管理対策の推進	危機管理対策の推進	3	BCP に関する研修に職員を派遣し、BCP の策定に向けて他県などの情報を収集し、骨子を作成した。 <b>■BCP の策定に向けた情報収集、研修参加の状況</b> <table border="1" data-bbox="1463 674 2350 793"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>日程</th> <th>派遣人数</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BCP 作成支援の進め方</td> <td>7/28~30</td> <td>1 名</td> <td>中小企業大学 校東京校</td> </tr> </tbody> </table>	名称	日程	派遣人数	場所	BCP 作成支援の進め方	7/28~30	1 名	中小企業大学 校東京校	年度計画を概ね達成
名称	日程	派遣人数	場所									
BCP 作成支援の進め方	7/28~30	1 名	中小企業大学 校東京校									
特定の災害と被害の想定のもと、優先業務の継続・復旧、被災企業の支援に関する取組を盛り込んだ「業務継続計画」(BCP)を策定し、適切に運用する。	特定の災害と被害の想定のもと、優先業務の継続・復旧、被災企業の支援に関する取組を盛り込んだ「業務継続計画」(BCP)を策定し、平成 27 年度の運用に向けた検討を行う。											

大項目	第 3 財務内容の改善に関する事項
中項目	1 自己収入の確保

中期目標	<p>&lt;財務内容の改善に関する目標&gt;                  外部資金の獲得などに積極的に取り組み、自主財源の確保を図る。また、経費の支出については、可能な限り抑制に努める。</p>
------	--

第 3 - 1 自己収入の確保

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																					
自己収入の確保	自己収入の確保	4	<p>開放機器・依頼試験、施設使用料については、消費税額の変更に伴い、迅速に手数料等の見直しを行った。また、新たに導入した機器についても、導入年度内に開放機器化を図った。</p> <p>■機器整備に係る補助事業等の獲得状況</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>機器名</th> <th>補助額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型自動車等機械工業振興事業 (JKA) 補助金</td> <td>グロー放電発光表面分析装置</td> <td>20,920,000円</td> </tr> <tr> <td>対内投資等地域活性化立地推進事業費補助金</td> <td>金属積層造形機 (金属 3D プリント)</td> <td>国 51,154,000円 ※県補助 27,705,476円</td> </tr> <tr> <td>平成25年度補正地域オープンイノベーション促進事業 (委託事業)</td> <td>味認識装置 におい識別装置</td> <td>事業管理機関：ちゅうごく産業創造センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>■研究開発に係る競争的資金の獲得</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> <th>補助額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)</td> <td>4 件</td> <td>41,614,970 円</td> </tr> <tr> <td>農林水産業の革新的技術緊急展開事業</td> <td>2 件</td> <td>H26 年度は研究開発費の補助はなし</td> </tr> </tbody> </table> <p>■機器・施設の利用促進や知的財産権の実施許諾の獲得に向けた PR 活動状況等</p> <p>①開放機器一覧2014の作成と配布 1000部                  ②施設利用案内を印刷 (300部) し、ひとつくり財団へ連携依頼を行った。                  ③知的財産権について、知的財産取得情報をホームページに公開すると共に、受託研究、共同研究等で、研究員やコーディネータが実施許諾の獲得に向けPR活動を行った。                  ④自動販売機については、公募制とし、売上手数料を得ることで、自己収入の確保を行った。                  H26年度実績 328,990円</p>	事業名	機器名	補助額	小型自動車等機械工業振興事業 (JKA) 補助金	グロー放電発光表面分析装置	20,920,000円	対内投資等地域活性化立地推進事業費補助金	金属積層造形機 (金属 3D プリント)	国 51,154,000円 ※県補助 27,705,476円	平成25年度補正地域オープンイノベーション促進事業 (委託事業)	味認識装置 におい識別装置	事業管理機関：ちゅうごく産業創造センター	提案公募名	獲得件数	補助額	戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	4 件	41,614,970 円	農林水産業の革新的技術緊急展開事業	2 件	H26 年度は研究開発費の補助はなし	<p>年度計画を十分達成</p> <p>機器整備に係る資金獲得で3件採択</p>
事業名	機器名	補助額																							
小型自動車等機械工業振興事業 (JKA) 補助金	グロー放電発光表面分析装置	20,920,000円																							
対内投資等地域活性化立地推進事業費補助金	金属積層造形機 (金属 3D プリント)	国 51,154,000円 ※県補助 27,705,476円																							
平成25年度補正地域オープンイノベーション促進事業 (委託事業)	味認識装置 におい識別装置	事業管理機関：ちゅうごく産業創造センター																							
提案公募名	獲得件数	補助額																							
戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	4 件	41,614,970 円																							
農林水産業の革新的技術緊急展開事業	2 件	H26 年度は研究開発費の補助はなし																							

大項目	第 3 財務内容の改善に関する事項
中項目	2 経費の抑制

第 3 - 2 経費の抑制

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
経費の抑制	経費の抑制	3		年度計画を概ね達成
経費の効率的使用の観点から、予算の配分や執行管理の方法について見直しを行いその結果に基づき必要な措置を講ずる。	経費の効率的使用の観点から、予算の配分・執行管理の方法について見直しを行う。		次年度の予算編成において、従来の前年度事業費を基準にした予算配分に積上による予算配分を取り入れるとともに、各部所の幹部による予算の審議を行うこととして、より厳密な予算配分に努めた。また、執行管理を目的として、9月と2月に予算の執行状況の集計を実施した。	より厳密な予算配分、執行管理の方法について見直し、それを実行

大項目	第 4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	1 施設設備の適切な管理

中期目標	<p>&lt;施設設備の適切な管理に関する目標&gt;                  施設設備が効果的・効率的に活用されるよう、その維持管理を適切に行うとともに、計画的な整備に努める。</p>
------	--

第 4 - 1 施設設備の適切な管理

中期計画	平成 26 年度の年度計画	評価	平成 26 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等												
施設設備の適切な管理	施設設備の適切な管理	3	<p>■施設の保守点検、修繕などの取組状況</p> <p>施設の保守業務については、必要に応じて計画的に予算配分をすることで、安全性や業務の信頼性の確保に努めた。                  また、修繕についてもその利用状況を勘案し、修繕の必要性が高いと判断されるものについては優先的な予算執行を認めるなど、施設、設備、機器が良好な状態に保たれるよう配慮した。                  施設の老朽化に伴う突発的な修繕にも迅速に対応し、良好な状態への早期復帰に努めた。</p> <p>■機器の保守点検、修繕などの取組状況</p> <p>機器については、既存機器の老朽度の把握を行うとともに、今後の研究開発での必要性の精査と企業へのアンケート調査の結果を踏まえて、新たな機器の必要性等について検討を行い、整備計画の修正を行った。</p> <p>①平成26年度購入試験研究機器等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>新規・更新の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グロー放電発光表面分析装置</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>金属積層造形機（金属 3Dプリンター）</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>味認識装置</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>におい識別装置</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>薬品管理システム</td> <td>更新</td> </tr> </tbody> </table> <p>施設の利活用促進については、ひとづくり財団、やまぐち産業振興財団、工業系学校・大学、金融機関等へ働きかけを行い、宇部工業高等学校166名の見学誘致や、下関西高等学校、下関工業高等学校の見学受入の予約等一定の成果を上げた。</p>	機器名	新規・更新の別	グロー放電発光表面分析装置	新規	金属積層造形機（金属 3Dプリンター）	新規	味認識装置	新規	におい識別装置	新規	薬品管理システム	更新	年度計画を概ね達成
機器名	新規・更新の別															
グロー放電発光表面分析装置	新規															
金属積層造形機（金属 3Dプリンター）	新規															
味認識装置	新規															
におい識別装置	新規															
薬品管理システム	更新															



<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数の 5年間合計 55,000人</p> <p>(注) 来庁者 施設利用者、見学者及び外来受 付者の合計をいう。</p>	<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数</p> <p>年間 11,000人</p>	<p>4</p>	<p>(数値目標) 中期計画期間中の来庁者数 11,875人 ※内訳 施設利用: 4,969人 (施設利用+見学) 外来受付: 6,906人</p> <p>■月別来庁者の推移</p> <table border="1" data-bbox="1421 394 2350 625"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設利用者</td> <td>300人</td> <td>5人</td> <td>285人</td> <td>286人</td> </tr> <tr> <td>見学者</td> <td>71人</td> <td>105人</td> <td>93人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>外来受付者</td> <td>502人</td> <td>514人</td> <td>522人</td> <td>511人</td> </tr> <tr> <td>月別合計</td> <td>873人</td> <td>624人</td> <td>900人</td> <td>847人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1421 667 2350 898"> <thead> <tr> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>595人</td> <td>40人</td> <td>450人</td> <td>620人</td> <td>402人</td> </tr> <tr> <td>55人</td> <td>71人</td> <td>40人</td> <td>22人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>609人</td> <td>511人</td> <td>587人</td> <td>582人</td> <td>731人</td> </tr> <tr> <td>1,259人</td> <td>622人</td> <td>1,077人</td> <td>1,224人</td> <td>1,160人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1421 947 2350 1226"> <thead> <tr> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>62人</td> <td>596人</td> <td>575人</td> <td>4216人</td> </tr> <tr> <td>17人</td> <td>175人</td> <td>27人</td> <td>753人</td> </tr> <tr> <td>633人</td> <td>547人</td> <td>657人</td> <td>6906人</td> </tr> <tr> <td>712人</td> <td>1,318人</td> <td>1,259人</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>11,875人</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	施設利用者	300人	5人	285人	286人	見学者	71人	105人	93人	50人	外来受付者	502人	514人	522人	511人	月別合計	873人	624人	900人	847人	8月	9月	10月	11月	12月	595人	40人	450人	620人	402人	55人	71人	40人	22人	27人	609人	511人	587人	582人	731人	1,259人	622人	1,077人	1,224人	1,160人	1月	2月	3月	計	62人	596人	575人	4216人	17人	175人	27人	753人	633人	547人	657人	6906人	712人	1,318人	1,259人				合計	11,875人	<p>年度計画を十分達成 達成度 108%</p>
	4月	5月	6月	7月																																																																										
施設利用者	300人	5人	285人	286人																																																																										
見学者	71人	105人	93人	50人																																																																										
外来受付者	502人	514人	522人	511人																																																																										
月別合計	873人	624人	900人	847人																																																																										
8月	9月	10月	11月	12月																																																																										
595人	40人	450人	620人	402人																																																																										
55人	71人	40人	22人	27人																																																																										
609人	511人	587人	582人	731人																																																																										
1,259人	622人	1,077人	1,224人	1,160人																																																																										
1月	2月	3月	計																																																																											
62人	596人	575人	4216人																																																																											
17人	175人	27人	753人																																																																											
633人	547人	657人	6906人																																																																											
712人	1,318人	1,259人																																																																												
		合計	11,875人																																																																											

大項目	第4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	2 環境負荷の低減

中期目標	<p>&lt;環境負荷の低減に関する目標&gt;                  業務運営に伴う環境負荷を低減するための取組を適切に実施する。</p>
------	--

第4-2 環境負荷の低減

中期計画	平成26年度の年度計画	評価	平成26年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																														
環境負荷の低減	環境負荷の低減	3	<p>環境負荷の低減に向けた環境マネジメントシステム ISO14001 を自己宣言とし、継続して実施している。研究開発では9テーマを実施した。また、6件の研究開発・技術支援の成果を上げた。</p> <p>運用状況については、H25年度に玄関ロビーに設置した電力モニターも合わせて毎年その状況の評価している。</p> <p>■環境負荷の低減に資する研究開発の実施</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>テーマ</th> <th>担当グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発</td> <td>設計制御</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>搾汁残渣からのβ-クリプトキサンチン抽出工程の効率化</td> <td>環境技術</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>木質バイオマスを用いた炭化物の成形加工技術の開発</td> <td>環境技術</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>新しいモジュール構造による安価・長寿命で高性能な水処理用セラミックフィルターの開発</td> <td>環境技術</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ケナフ繊維複合ボード端材と容器梱包リサイクルプラスチックの複合化による低コスト高強度射出成形自動車部材の開発</td> <td>材料技術</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>食品系廃棄物に含まれるポリフェノール類利用技術の開発</td> <td>食品技術</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発</td> <td>材料技術 環境技術 食品技術</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>LED等光技術を応用した農業支援技術の開発</td> <td>光応用チーム</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>LED等光技術を応用した漁業支援技術の開発</td> <td>光応用チーム</td> </tr> </tbody> </table>		テーマ	担当グループ	1	水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発	設計制御	2	搾汁残渣からのβ-クリプトキサンチン抽出工程の効率化	環境技術	3	木質バイオマスを用いた炭化物の成形加工技術の開発	環境技術	4	新しいモジュール構造による安価・長寿命で高性能な水処理用セラミックフィルターの開発	環境技術	5	ケナフ繊維複合ボード端材と容器梱包リサイクルプラスチックの複合化による低コスト高強度射出成形自動車部材の開発	材料技術	6	食品系廃棄物に含まれるポリフェノール類利用技術の開発	食品技術	7	県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発	材料技術 環境技術 食品技術	8	LED等光技術を応用した農業支援技術の開発	光応用チーム	9	LED等光技術を応用した漁業支援技術の開発	光応用チーム	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>法人本来の目的である、研究開発、技術支援分野で実績</p>
	テーマ	担当グループ																																
1	水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発	設計制御																																
2	搾汁残渣からのβ-クリプトキサンチン抽出工程の効率化	環境技術																																
3	木質バイオマスを用いた炭化物の成形加工技術の開発	環境技術																																
4	新しいモジュール構造による安価・長寿命で高性能な水処理用セラミックフィルターの開発	環境技術																																
5	ケナフ繊維複合ボード端材と容器梱包リサイクルプラスチックの複合化による低コスト高強度射出成形自動車部材の開発	材料技術																																
6	食品系廃棄物に含まれるポリフェノール類利用技術の開発	食品技術																																
7	県産天然油脂の搾油・精製・利用技術の開発	材料技術 環境技術 食品技術																																
8	LED等光技術を応用した農業支援技術の開発	光応用チーム																																
9	LED等光技術を応用した漁業支援技術の開発	光応用チーム																																

■環境負荷の低減に資する研究開発・技術支援の成果

1	南氷洋産クロミンク鯨油を利用したボディソープの製造技術開発	研究開発＋技術支援
2	リンゴ果皮着色技術の開発～メッセージフルーツへの応用～	研究開発
3	プラスチック粉末を用いた着色剤とカラー漆喰塗料	研究開発
4	補光による植物病害防除技術の開発	研究開発
5	大吟醸酒の酒粕を独自技術で発酵させた『にごり酢』	技術支援
6	玉砂利固定具の設計支援	技術支援

■電力、水道水、ガスの使用状況および廃棄物の排出状況

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
コピー用紙（枚）	527,500	591,000	563,750	629,500	627,000
電力（MWH）※	1,846	1,986	2,150	2,119	2,243
水道水（m3）	4,798	4,061	4,028	3,656	2,958
プロパンガス（m3）	5,726	5,768	5,799	6,573	7,126
A重油（L）	40	20	30	30	90
廃棄物	4,431	6,530	4,903	7,541	7,288
特別管理廃棄物	1,144	625	607	1,059	1,080

■グリーン購入の実施状況

	グリーン購入率				
	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
用紙類	98.2%	98.2%	99.7%	99.5%	98.2%
文具等	80.9%	72.4%	78.5%	82.9%	78.0%
器具什器	100.0%	100.0%	100%	86.9%	68.9%
作業服等	—	—	99.5%	99.8%	100%

注）グリーン購入率は、購入金額ベースのもの

上記結果を元に、コピー用紙の裏面や封筒の再利用、トナーカートリッジ、インクカートリッジの回収、ゴミの分別収集による古紙などの再資化、グリーン購入などに継続して取り組んでいる。

器具什器の購入については、4機種中、2機種が試験研究用什器のため、グリーン購入対象外であった。

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	1 予算

中期計画		平成26年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
収入		収入				*「研究費等」の増の主たる要因は、外部からの研究費収入が見込みを上回ったことによるものです。
運営費交付金等	3,190	運営費交付金等	611	611	0	
自己収入	1,032	自己収入	206	315	109	
使用料・手数料	147	使用料・手数料	29	36	7	
特許実施料	33	特許実施料	7	11	4	
研究費等	673	研究費等	135	149	14	
補助金等収入	175	補助金等収入	35	117	82	
その他収入	4	その他収入	1	2	1	
前中期目標期間繰越積立金取崩	61	前年度からの繰越金	0	41	41	
計	4,284	前中期目標期間繰越積立金取崩	0	4	4	
		計	817	971	154	
支出		支出				
業務費	944	業務費	176	241	65	
人件費	2,506	人件費	474	449	▲25	
一般管理費	544	一般管理費	109	113	4	
施設費	290	施設費	58	148	90	
計	4,284	計	817	950	133	
(注)四捨五入の関係で端数が合わないことがある。		(注)四捨五入の関係で端数が合わないことがある。				
【人件費の見積り】 中期目標期間中、総額2,506百万円を支出する。 ※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。		【人件費の見積り】 総額474百万円を支出する。  ※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。				

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	2 収支計画

中期計画		平成26年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
費用の部	4,438	費用の部	860	975	115	*「業務費」の増の主たる要因は、外部からの研究事業等収益が見込みを上回り、それに伴って業務費が増加したことによるものです。
經常経費	4,373	經常経費	847	836	▲11	
業務費	1,286	業務費	257	272	15	
人件費	2,506	人件費	474	449	▲25	
管理運営費	575	管理運営費	115	116	1	
財務費用	5	財務費用	1	0	▲1	
雑損	0	雑損	0	0	0	
臨時損失	66	臨時損失	13	139	126	
収入の部	4,438	収入の部	860	995	135	
經常収益	4,373	經常収益	847	856	9	
運営費交付金収益	3,045	運営費交付金収益	582	567	▲15	
使用料・手数料収益	147	使用料・手数料収益	29	36	7	
特許実施料	33	特許実施料	7	11	4	
研究事業等収益	673	研究事業等収益	135	115	▲20	
補助金等収益	30	補助金等収益	6	36	▲30	
施設費収益	0	施設費収益	0	0	0	
その他収益	4	その他収益	1	1	0	
資産見返運営費交付金等戻入	440	資産見返運営費交付金等戻入	29	19	▲10	
臨時利益	66	臨時利益	40	61	21	
当期純利益	▲61	当期純利益	3	6	3	
前中期目標期間繰越積立金取崩益	61	資産見返寄附金戻入	17	2	▲15	
純利益	0	資産見返物品受贈額戻入	13	140	127	
		臨時利益	0	20	20	
		当期純利益	0	1	1	
		目的積立金取崩額	0	21	21	
		純利益	0			

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。  
※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。  
※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	3 資金計画

中期計画		平成26年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
資金支出	4,284	資金支出	817	1,067	250	*「研究費等による収入」の増の主たる要因は、外部からの研究費収入が見込みを上回ったことによるものです。
業務活動による支出	3,989	業務活動による支出	758	860	102	
投資活動による支出	290	投資活動による支出	58	207	149	
財務活動による支出	5	財務活動による支出	1	0	▲1	
次期中期目標期間への繰越金	0	次期中期目標期間への繰越金	0	0	0	
資金収入	4,284	資金収入	817	1,085	268	
業務活動による収入	3,947	業務活動による収入	762	950	188	
運営費交付金による収入	3,060	運営費交付金による収入	585	585	0	
使用料・手数料収入	147	使用料・手数料収入	29	37	8	
特許実施料	33	特許実施料	7	11	4	
研究費等による収入	673	研究費等による収入	135	267	132	
補助金等による収入	30	補助金等による収入	6	48	48	
その他の収入	4	その他の収入	1	2	1	
投資活動による収入	275	投資活動による収入	55	131	76	
財務活動による収入	0	財務活動による収入	0	0	0	
前期中期目標期間からの繰越金	61	前期中期目標期間からの繰越金	0	4	4	

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第6 短期借入金の限度額
-----	--------------

中期計画	平成26年度の年度計画	左の実績	特記事項
3億5千万円	3億5千万円	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画
-----	---

中期計画	平成26年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

大項目	第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
-----	-------------------------

中期計画	平成26年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第9 剰余金の使途
-----	-----------

中期計画	平成26年度の年度計画	左の実績	特記事項
決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設整備の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設整備の改善に充てる。	承認を受けた前中期目標期間繰越積立金について、平成26年度において第2期中期計画第10の定めにより、試験研究の質の向上並びに組織運営の改善(新エネルギー関係研究の質の向上、組織運営の改善に資する人材育成)に充当するため、3.9百万円の取崩を行った。	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第10 法第40条第4項の承認を受けた金額の使途
-----	--------------------------

中期計画	平成26年度の年度計画	左の実績	特記事項
前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善の充てる。	前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善の充てる。	新エネルギー研究の質の向上(2.5百万円)及び組織運営の効率化に資する職員研修(1.4百万円)に要する経費に充当した。	

#### IV その他法人の現況に関する事項

##### 1 地域別企業支援状況(平成26年度)

種 別		地 域 別						合 計
項 目		岩柳地域	周南地域	県央地域	西部地域	北部地域	県 外	
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	254 (7)	384 (20)	776 (28)	1,799 (39)	145 (16)	394 (1)	3,752 (111)
	外部紹介 (うち訪問等)	2 (-)	6 (-)	20 (6)	28 (-)	1 (-)	6 (-)	63 (6)
計 (実利用者数)		256 (78)	390 (131)	796 (197)	1,827 (405)	146 (47)	400 (161)	3,815 (1,019)
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	40 (92)	62 (182)	83 (421)	165 (902)	29 (57)	52 (119)	431 (1,773)
	うち企業 (訪問回数)	39 (90)	54 (162)	59 (135)	143 (431)	24 (44)	25 (40)	344 (902)
	うち新規 (訪問回数)	4 (6)	5 (7)	11 (11)	20 (27)	7 (8)	0 (-)	47 (59)
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	218 (21)	221 (43)	576 (61)	1668 (135)	38 (8)	357 (72)	3,078 (340)
	金 額	528	1,125	3,219	8,254	74	7,429	20,629
依頼試験	件 数 (実利用者数)	32 (14)	66 (20)	254 (34)	183 (63)	49 (14)	37 (20)	621 (165)
	点 数	74	286	759	792	185	96	2,192
	金 額	334	975	2,597	2,893	616	1,425	8,840
受託研究	件 数	0	0	3	3	0	1	7
	金 額	0	0	760	972	0	439	2,171
研修生受入 人 数	企 業	0	3	2	6	-	-	11
	学 生	-	-	-	1	-	-	1
	インターンシップ	-	-	-	1	-	2	3
計		0	3	2	8	0	2	15
職員派遣研修	件 数	-	1	1	-	-	-	2
成果発表会	回 数	-	-	-	2	-	-	2
講習会	回 数	-	2	3	30	1	3	39
出 展	回 数	-	-	2	2	-	-	4
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	- (2)	- (-)	- (0)	2 (4)	- (-)	- (8)	2 (14)
	金 額	-	-	-	120	-	-	120
事業化・商品化件数		2	1	1	6	-	-	10
実施許諾	件 数 (うち新規)	1 (-)	4 (-)	6 (2)	13 (2)	3 (1)	5 (-)	32 (5)
	金 額 (うち新規)	5 (-)	4 (-)	55 (-)	1,404 (-)	14 (-)	9,743 (-)	11,224 (-)

##### ※ 地域別区分

- ①岩柳地域  
岩国市、柳井市、周防大島町、  
上関町、田布施町、平生町
- ②周南地域  
下松市、光市、周南市
- ③県央地域  
山口市、防府市
- ④西部地域  
下関市、宇部市、美祢市、山陽小野田市
- ⑤北部地域  
萩市、長門市、阿武町

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。



地域別企業支援状況の推移(平成 26 年度～30 年度)

種 別 項 目		岩柳地域					周南地域					県央地域				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	254 (7)					384 (20)					776 (28)				
	外部紹介 (うち訪問等)	2 (-)					6 (-)					20 (6)				
計 (実利用者数)		256 (78)					390 (131)					796 (197)				
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	40 (92)					62 (182)					83 (421)				
	(うち新規) (訪問回数)	(4) (6)					(5) (7)					(11) (11)				
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	218 (21)					221 (43)					576 (61)				
	金 額	528					1,125					3,219				
依頼試験	件 数 (実利用者数)	32 (14)					66 (20)					254 (34)				
	点 数	74					286					759				
	金 額	334					975					2,597				
受託研究	件 数	-					-					3				
	金 額	-					-					760				
研修生受入 人 数	企 業	-					3					2				
	学 生	-					-					-				
	インターンシップ	-					-					-				
計		-					3					2				
職員派遣研修	件 数	-					1					1				
成果発表会	回 数	-					-					-				
講習会	回 数	-					2					3				
出 展	回 数	-					-					2				
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	- (2)					- (-)					- (-)				
	金 額	-					-					-				
事業化・商品化件数		2					1					1				
実施許諾	件 数 (うち新規)	1 (-)					4 (-)					6 (2)				
	金 額 (うち新規)	5 (-)					4 (-)					55 (-)				

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移(平成 26 年度～30 年度)

種 別 項 目		西部地域					北部地域					県 外				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	1,799 (39)					145 (16)					394 (1)				
	外部紹介 (うち訪問等)	28 (-)					1 (-)					6 (-)				
計 (実利用者数)		1,827 (405)					146 (47)					400 (161)				
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	165 (902)					29 (57)					52 (119)				
	(うち新規) (訪問回数)	(20) (27)					(7) (8)					- (-)				
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	1,668 (135)					38 (8)					357 (72)				
	金 額	8,254					74					7,429				
依頼試験	件 数 (実利用者数)	183 (63)					49 (14)					37 (20)				
	点 数	792					185					96				
	金 額	2,893					616					1,425				
受託研究	件 数	3					0					1				
	金 額	972					0					439				
研修生受入 人 数	企 業	6					-					-				
	学 生	1					-					-				
	インターンシップ	1					-					2				
計		8					0					2				
職員派遣研修	件 数	-					-					-				
成果発表会	回 数	2					-					-				
講習会	回 数	30					1					3				
出 展	回 数	2					-					-				
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	2 (4)					- (-)					- (8)				
	金 額	120					-					-				
事業化・商品化件数		6					-					-				
実施許諾	件 数 (うち新規)	13 (2)					3 (1)					5 (-)				
	金 額 (うち新規)	1,404 (-)					14 (-)					9,743 (-)				

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移(平成 26 年度～30 年度)

種 別		合 計				
項 目		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	3,752 (111)				
	外部紹介 (うち訪問等)	63 (6)				
計 (実利用者数)		3,815 (1,019)				
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	431 (1,773)				
	(うち新規) (訪問回数)	(47) (59)				
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	3,078 (340)				
	金 額	20,629				
依頼試験	件 数 (実利用者数)	621 (165)				
	点 数	2,192				
	金 額	8,840				
受託研究	件 数	7				
	金 額	2,171				
研修生受入 人 数	企 業	11				
	学 生	1				
	インターンシップ	3				
計		15				
職員派遣研修	件 数	2				
成果発表会	回 数	2				
講習会	回 数	39				
出 展	回 数	4				
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	2 (14)				
	金 額	120				
事業化・商品化件数		10				
実施許諾	件 数 (うち新規)	32 (5)				
	金 額 (うち新規)	11,224 (-)				

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

2 産業分類別企業支援状況(平成 26 年度)

産業分類別	技術 相談 件数	企業等 訪問 件数 (回数)	開放機器		依頼試験			受託研究		研 修		共同研究 (資金の受入れがないも の外数)		事業化 ・ 製品化 件数	実施許諾	
			件数	金額	件数	点数	金額	件数	金額	受入研修 (人数)	派遣研修 (件数)	件数	金額		件数 (うち新規)	金額 (うち新規)
食品・飲料関係 (実利用者数)	444 (182)	74 (107)	229 (42)	540	106 (53)	252	1,555	1	47	2	-	- (2)	-	1	6 (-)	42 (-)
化学・プラスチック関係 (実利用者数)	690 (139)	46 (160)	639 (57)	7,904	55 (14)	298	1,117	2	499	3	-	- (2)	-	-	- (-)	- (-)
窯業・土石関係 (実利用者数)	96 (32)	19 (37)	54 (10)	145	7 (4)	26	90	1	172	-	-	- (-)	-	2	2 (-)	- (-)
鉄鋼・金属関係 (実利用者数)	543 (96)	40 (118)	488 (38)	2,936	175 (11)	542	1,382	2	1,014	3	2	2 (3)	120	1	7 (1)	10,970 (-)
機械関係 (実利用者数)	627 (162)	51 (178)	414 (53)	1,837	70 (22)	388	1,419	-	-	1	-	- (2)	-	2	6 (-)	170 (-)
電気・情報通信関係 (実利用者数)	240 (57)	22 (36)	404 (50)	3,251	8 (5)	8	493	-	-	-	-	- (2)	-	1	- (-)	- (-)
その他製品 (実利用者数)	670 (200)	88 (248)	463 (62)	1,949	53 (29)	181	1,164	-	-	-	-	- (-)	-	2	11 (4)	42 (-)
建設業 (実利用者数)	179 (40)	8 (18)	21 (5)	74	117 (17)	428	929	1	439	1	-	- (-)	-	-	- (-)	- (-)
公的機関・団体・大学・高専・個人 (実利用者数)	326 (104)	81 (871)	366 (27)	1,993	30 (10)	69	691	-	-	1	-	- (3)	-	1	- (-)	- (-)
合 計 (実利用者数)	3,815 (1,012)	429 (1,773)	3,078 (344)	20,629	621 (165)	2,192	8,840	7	2,171	11	2	2 (14)	120	10	32 (5)	11,224 (-)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

同一企業であっても、異なる地域に複数の事業所がある場合、地域別支援状況と件数で差異が生じる場合があります。

産業分類別企業支援状況の推移(平成 26 年度～30 年度)

種 別 項 目	食品・飲料関係					化学・プラスチック関係					窯業・土石関係				
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)	444 (182)					690 (139)					96 (32)				
企業訪問件数 (訪問回数)	74 (107)					46 (160)					19 (37)				
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	229 (42)				639 (57)					54 (10)				
	金 額	540				7,904					145				
依頼試験	件 数 (実利用者数)	106 (53)				55 (14)					7 (4)				
	点 数	252				298					26				
	金 額	1,555				1,117					90				
受託研究	件 数	1				2					1				
	金 額	47				499					172				
研 修	受入人数	2				3					-				
	派遣件数	-				-					-				
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	- (2)				- (2)					- (-)				
	金 額	-				-					-				
事業化・商品化件数	1					-					2				
実施許諾	件 数 (うち新規)	6 (-)				- (-)					2 (-)				
	金 額 (うち新規)	42 (-)				- (-)					- (-)				

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(平成 26 年度～30 年度)

種 別 項 目	鉄鋼・金属関係					機械関係					電気・情報通信関係				
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)	543 (96)					627 (162)					240 (57)				
企業訪問件数 (訪問回数)	40 (118)					51 (178)					22 (36)				
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	488 (38)				414 (53)					404 (50)				
	金 額	2,936				1,837					3,251				
依頼試験	件 数 (実利用者数)	175 (11)				70 (22)					8 (5)				
	点 数	542				388					8				
	金 額	1,382				1,419					493				
受託研究	件 数	2				-					-				
	金 額	1,014				-					-				
研 修	受入人数	3				1					-				
	派遣件数	2				-					-				
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (3)				- (2)					- (2)				
	金 額	120				-					-				
事業化・商品化件数	1					2					1				
実施許諾	件 数 (うち新規)	7 (1)				6 (-)					- (-)				
	金 額 (うち新規)	10,970 (-)				170 (-)					- (-)				

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(平成 26 年度～30 年度)

種 別 項 目	その他の製品					建設業					公的機関・団体・大学・高専・個人				
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)	670 (200)					179 (40)					326 (104)				
企業訪問件数 (訪問回数)	88 (248)					8 (18)					81 (871)				
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	463 (62)				21 (5)					366 (27)				
	金 額	1,949				74					1,993				
依頼試験	件 数 (実利用者数)	53 (29)				117 (17)					30 (10)				
	点 数	181				428					69				
	金 額	1,164				929					691				
受託研究	件 数	-				1					-				
	金 額	-				439					-				
研 修	受入人数	-				1					1				
	派遣件数	-				-					-				
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	- (-)				- (-)					- (3)				
	金 額	-				-					-				
事業化・商品化件数	2					-					1				
実施許諾	件 数 (うち新規)	11 (4)				- (-)					- (-)				
	金 額 (うち新規)	42 (-)				- (-)					- (-)				

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(平成 26 年度～30 年度)

種 別 項 目		合 計				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)		3,815 (1,012)				
企業訪問件数 (訪問回数)		429 (1,773)				
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	3,078 (344)				
	金 額	20,629				
依頼試験	件 数 (実利用者数)	621 (165)				
	点 数	2,192				
	金 額	8,840				
受託研究	件 数	7				
	金 額	2,171				
研 修	受入人数	11				
	派遣件数	2				
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (14)				
	金 額	120				
事業化・商品化件数		10				
実施許諾	件 数 (うち新規)	32 (5)				
	金 額 (うち新規)	11,224 (-)				

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。



3 施設利用(平成 26 年度～30 年度)

項 目		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
施 設 利 用	多目的ホール	件 数	24			
		利用人数	2,570			
		金 額	319,555			
	第一研修室	件 数	21			
		利用人数	633			
		金 額	53,820			
	第二研修室	件 数	12			
		利用人数	289			
		金 額	33,540			
	第一会議室	件 数	23			
		利用人数	300			
		金 額	40,440			
第二会議室	件 数	21				
	利用人数	424				
	金 額	35,960				
施 設 見 学	企業・産業関係団体	件 数	19			
		利用人数	221			
	研究者	件 数	2			
		利用人数	9			
	学生・生徒	件 数	8			
		利用人数	463			
	その他	件 数	12			
		利用人数	60			

注) 施設利用は有料のものをカウントしています。

4 財務関係

(1) 資産、負債

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
資産 A	6,198,714					
固定資産	6,024,796					
流動資産	173,918					
負債 B	380,444					
固定負債	304,585					
流動負債	75,859					
資本 C	5,818,270					
資本金	6,375,046					
資本剰余金	△ 655,031					
うち損益外減価償却費累計額 (-)	△ 823,688					
利益剰余金	98,255					
目的積立金	0					
積立金	77,121					
当期未処分利益	21,134					
その他有価証券評価差額金	-					
負債資本合計 D = B + C	6,198,714					

注1：直近5か年について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。

## (2) 損益計算書

(千円)

項 目	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	備考
経常経費 A	836,127					
業務費	836,127					
業務費	271,537					
役員人件費	13,370					
職員人件費	435,299					
管理運営費	115,922					
財務費用	-					
雑損	-					
経常収益 B	855,517					
運営費交付金収益	566,665					
使用料・手数料収益	36,465					
特許実施料	11,224					
研究事業等収益	115,291					
補助金等収益	36,082					
施設費収益	0					
その他収益	1,204					
資産見返運営費交付金等戻入	88,588					
経常利益 C = B - A	19,390					
臨時損失 D	139,267					
臨時利益 E	139,611					
当期純利益 F = C - D + E	19,734					
目的別積立金取崩額 G	1,400					
当期総利益 H = F + G	21,134					

注1：直近5か年について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (3) キャッシュ・フロー計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務活動によるキャッシュ・フロー A	168,789					
投資活動によるキャッシュ・フロー B	△ 155,232					
財務活動によるキャッシュ・フロー C	-					
資金に係る換算差額 D	-					
資金増加額 E = A+B+C+D	13,557					
資金期首残高 F	88,805					
資金期末残高 G	102,362					

注1：直近5か年について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示しています。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (4) 行政サービス実施コスト計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務活動によるキャッシュ・フロー A	804,407					
損益計算書上の費用	975,394					
(控除) 自己収入等	△ 170,988					
損益外減価償却相当額 B	154,132					
損益外減損損失相当額 C	-					
引当外賞与増加見積額 D	535					
引当外退職金給付増加見積額 E	△ 2,670					
機会費用 F	49,447					
(控除) 設立団体納額 G	-					
行政サービス実施コスト F = A+B+C+D+E+F-G	1,005,851					

注1：直近5か年について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

5 組織関係

(1) 役職員数

(人)

年度 区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
常勤役員数	2					
非常勤役員数	1					
常勤職員数	47					
非常勤職員数	26					

(2) 役員の状況

氏名	役職名	任期	任期途中の異動の有無	備考
山田 隆裕	理事長	平成 25. 4. 1 ~ 平成 27. 3. 31	無	
小泉 良	副理事長	平成 25. 4. 1 ~ 平成 27. 3. 31	無	
品川 充洋	監事	平成 25. 4. 1 ~ 平成 27. 3. 31	無	非常勤

6 主要な設備等の状況

種類	構造	床面積 (m <sup>2</sup> )	築年度	経過年度	備考
事務室・実験室	鉄筋コンクリート造陸屋根、ステンレス鋼板葺地下1階付4階建	15,712.67	平成11年度	15年	
実験室・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階建	157.56	平成11年度	15年	
車庫・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	73.22	平成11年度	15年	
新事業創造支援センター	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	891.00	平成16年度	10年	

7 その他の評価結果等の活用状況

評価等実施機関の名称	評価結果等の確定	指摘事項等	指摘事項への対応策
平成25年度包括外部監査	一点指摘事項あり	「固定資産貸付要項」第1号様式「固定資産使用申込書」には、「減免を受けようとする場合はその理由」を記載する欄が設けられているが、記載されていないケースが散見された。申込書を別途様式で行うか等を検討して、ルール of 徹底を図ること。	申込書の様式変更は行わないが、申請者に対してルールを徹底することとした。また、平成26年度の申込に当たり、減免理由を記載するよう通知文書により周知徹底を図った。

8 その他法人の現況に関する重要事項

該当なし。